平成 22 年度　香川県内遺跡発掘調査

讃岐国府跡発掘調査概報

2011. 9

香川県教育委員会

例　言

1．本書は、香川県教育委員会が平成22年度国庫補助事業として実施した香川県内遺跡発掘調査のうち、讃岐国府跡発掘調査についての概要報告書である。

2．発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体となり、香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。

3．発掘調査は、下記の期間で実施している。

期間：平成22年11月9日～平成23年2月22日

担当：香川県埋蔵文化財センター文化財専門員・宮﨑哲治

4．調査に当って、下記の機関等の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。

坂出市府中町地元自治会、同地元水利組合、坂出市教育委員会、清水重敦（奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長）、松本清孝（地権者）

5．本書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施し、執筆・編集は宮﨑が行った。

6．本書で用いる方位の北は国土座標第Ⅳ系の北であり、標高は東京湾平均海水位（T.P.）を基準としている。また、遺構は下記の略号により表示している。

ＳＤ　溝状遺構

7．遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位：m）を示している。

8．土層断面図の層名および遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖　1994年版』による。

※地図は国土地理院地形図を使用しました。

目　次

第１章　　調査の経過
　第１節　調査・整理の経過 ･･･ 1
　第２節　既往の調査 ･･･ 4
第２章　　調査の成果
　第１節　地形と土層序 ･･･ 4
　第２節　遺構・遺物 ･･･ 9
第３章　　まとめ･･･ 19

挿図目次

第１図　讃岐国府跡調査地位置図･････････････････････2
第２図　遺構配置図①･････････････････････････････5
第３図　遺構配置図②･････････････････････････････6
第４図　調査区東西土層断面図･････････････････････7
第５図　調査区南北土層断面図･････････････････････8
第６図　SD01出土遺物実測図 ･････････････････････10
第７図　SD02出土遺物実測図 ･････････････････････11
第８図　SD03出土遺物実測図 ･････････････････････11
第９図　SD04出土遺物実測図 ･････････････････････12
第10図　SD05出土遺物実測図 ･････････････････････12
第11図　石列状遺構平･断面図･････････････････････14
第12図　SD07出土遺物実測図① ････････････････････16
第13図　SD07出土遺物実測図② ････････････････････17
第14図　SD07出土遺物実測図③ ････････････････････18
第15図　SD08出土遺物実測図 ･････････････････････18
第16図　包含層出土遺物実測図①･･････････････････20
第17図　包含層出土遺物実測図②･･････････････････21

表目次

第１表　讃岐国府跡調査地一覧表･････････････････････3
第２表　遺物観察表（土器）１ ･････････････････････23
第３表　遺物観察表（土器）２ ･････････････････････24
第４表　遺物観察表（土器）３ ･････････････････････25
第５表　遺物観察表（土器）４ ･････････････････････26
第６表　遺物観察表（土器）５ ･････････････････････27
第７表　遺物観察表（土器）６ ･････････････････････28
第８表　遺物観察表（土器）７ ･････････････････････29
第９表　遺物観察表（瓦）･･････････････････････････30
第10表　遺物観察表（石器）････････････････････････30

写真図版目次

図版1
　調査地遠景（南東から）
　調査区完掘状況（北から）
図版２
　基本土層序（西から）
　SD01土層断面（北東から）
　SD01遺物出土状況（南西から）
　SD05検出状況（南から）
　石列状遺構完掘状況（南から）
図版３
　石列状遺構完掘状況（北から）
　石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南西から）
図版４
　石列状遺構の北礫敷き部分（北から）
　石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南から）
図版５
　石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南から）
　石列状遺構（南東から）
　SD07西肩部（北西から）
　SD08土層断面（北から）
図版６
　出土遺物１
　　14　17　21　23　24　45　43-1　43-2
図版７
　出土遺物２
　　73-1　73-2　74-1　74-2　79　113　114　139
図版８
　出土遺物３
　　151　184　164-1　164-2　201-1　201-2　211-1　211-2

第１章　調査の経過

第１節　調査・整理の経過

「讃岐国府跡探索事業」として讃岐国府の調査を実施するのは、讃岐国府が古代讃岐の政治の中心施設であり、その後の讃岐の県土形成に大きな役割を果たした行政府の実情を明らかにし、保存・活用を図ることを目的としているからである。４ヵ年の継続事業として平成 21 年度に開始した「讃岐国府跡探索事業」の、本年度は２年目にあたる。

発掘調査地点の選定については､昨年度に地形･地名調査の成果などを基に埋蔵文化財センター内で検討を繰り返して、周知の埋蔵文化財包蔵地「讃岐国府跡」の北西部に国府の中心地である国庁が存在する可能性が高いのではないかと推定した。それは、城山から綾川に向かって伸びる尾根の末端付近にあたり安定した土地であるという地形的な条件の良さと、国府の政庁を想定させる地名「セイドウ」をはじめ､「インヤク（インニャク)」「クラマエ」などが集中して聞き取れたという地名調査の成果に基づくものである。昨年度は、推定した微高地上で国庁を含めた施設の建物跡の検出に努めたが､12 ～ 13 世紀代の小規模な掘立柱建物跡３棟の確認にとどまった。調査担当者は、昨年度調査地の東側に国庁の可能性を想定している。今年度はこれを受けて、微高地の東端付近で、東西方向に約 60㎝の比高差を有する上段部を発掘調査地点とした。調査体制上、発掘調査はトレンチ調査という線・点的な形態をとらざるを得ないことから、国庁の周囲を囲んだ板塀や築地塀などの施設の検出を目的として調査に当った。

調査地は民地（水田）であることから、地権者への説明、補償の手続きを行い、地権者の承諾を得て 10 月末で準備を整えた。

発掘調査は、平成 22 年 11 月９日～平成 23 年２月 22 日の期間で実施した。当初予定したＬ字形の調査区部分については一部遺構検出面まで重機で掘り下げたが、包含層や拡張した調査区についてはすべて人力によって掘り下げている。包含層や遺構の掘り下げは主にボランティア調査員が担当した。ある程度まとまった人員で作業を行うために､基本的に作業日を週３日としたが､調査終盤は稼動日を増やして作業を進めた。延べ調査日は 41 日、ボランティア調査員の述べ参加人数は 184 人にのぼる。最終的な調査面積は 38㎡となった。

現地は伏流水による湧水が激しく、仮設電力を設置できないため電力ポンプによる常時排水ができず、発動発電機とポンプによる作業前の排水は日課となった。このことは、土の掘り下げ、測量作業、写真撮影前の清掃など全てにおいて作業効率を下げる要因となったことを特記しておきたい。

調査期間中には、坂出市立坂出中学校２年生、同白峰中学校２年生生徒の職場体験､「ちょっと寄り道こんぴら街道　二〇一〇　もみじ編」や香川県文化財保護協会の研修会での現場見学なども合わせて実施した。新聞・テレビなどの報道機関も昨年度に引き続いて取材を実施し、情報

発信の一翼を担っていただいた。1月23日には午前中に府中町住民を対象にした地元説明会、午後からは一般を対象とした現地説明会を開催し、合わせて200人もの参加を得た。

また、1月12日には、奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長の清水重敦氏を現地へ招聘して、石列状遺構を実見していただき、貴重な御指導・御意見を拝した。

平成23年2月22日に現地の埋め戻し・現状復旧を終え、地権者の確認を得て、発掘調査は終了した。

第1図　讃岐国府跡調査地位置図

番号	調査年度	調査次	調査主体	調査面積	主な遺構内容	主な出土遺物	文献
1	昭和５１年度	第１次調査	市教委		奈良・平安時代と平安後半～鎌倉時代の土坑・溝・柱穴・井戸など	土器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器片など	香川県 1982
2	昭和５２年度	第２次調査	県教委	約 200㎡	平安後半～近世の柱穴・土坑・井戸・溝状遺構など	土師器杯・皿・碗、須恵器甕・壺・杯・皿、土師質土器杯・皿・碗・足釜、瓦質土器鉢・甕、瓦器碗、輸入磁器、陶器、緑釉瓦、銅銭、鉄滓、鉄器、石臼、硯、五輪塔など	香川県 1982
3	昭和５３年度	第３次調査	県教委		古代の柱穴、１１～１２世紀の溝状遺構	瓦質土器鉢など	香川県 1982
4		第４次調査	県教委		１３世紀の土坑、１５～１６世紀の井戸溝遺構、１７世紀の掘立柱建物・土坑・溝状遺構など	土師質土器・瓦質土器、施釉陶器、輸入磁器、近世陶器、獣骨	香川県 1982
5		第５次調査	県教委		なし	なし	香川県 1982
6	昭和５４年度	第６次調査	県教委		７世紀後半の溝状遺構、７世紀後半～平安時代末の掘立柱建物跡・柵列、平安後半～鎌倉時代初頭の掘立柱建物跡・石敷き遺構・土壙墓？近世の溝状遺構など	須恵器、土師器、緑釉陶器、瓦質土器、瓦器、中国産白磁碗、瓦、鉄器、青銅製品、銅銭など	香川県 1982
7	昭和５５年度	第７次調査	県教委		平安時代中葉前後の溝状遺構、平安時代末～鎌倉時代前半の柱穴・井戸など	瓦など	香川県 1982
8	昭和５６年度	第８次調査	県教委		平安時代後半の溝状遺構、鎌倉時代前半の柱穴・溝状遺構など	須恵器杯・皿・円面硯・墨書土器、土師質土器皿・杯・碗、緑釉陶器碗、中国製白磁碗・皿、同青磁碗など	香川県 1982
9	昭和５９年度	第９次調査	市教委		平安時代前期～鎌倉時代前半の柱穴・溝状遺構など		坂出市 1993
10	昭和６３年度	第１０次調査	市教委		平安時代末～鎌倉時代前半の掘立柱建物跡・井戸・溝状遺構など		坂出市 1993
11		第１１次調査	市教委		平安時代末～鎌倉時代前半の溝状遺構など		坂出市 1993
12	平成２年度	第１２次調査	市教委		なし	土師器・瓦など	坂出市 1993
13	平成３年度	第１３次調査	市教委	26㎡	古代末～中世前半頃の柱穴と土坑ともしくは溝状遺構	土師質土器片	坂出市 1992
14		第１４次調査	市教委	4㎡	なし	土師質土器、須恵器、瓦片	坂出市 1992
15		第１５次調査	市教委	180㎡	１３世紀前半と１２世紀後半～１３世紀頃の柱穴群・土坑・溝状遺構など	土師質土器小皿・皿・杯・足釜、須恵器壺・甕、黒色土器碗、瓦器碗、瓦質土器、中国産白磁碗・皿、同青磁皿、平瓦片、石憧など	坂出市 1992
16	平成４年度	第１６次調査	市教委	184㎡	１２世紀後半～１３世紀にかけての掘立柱建物・柱穴群・土坑・方形木組井戸・溝状遺構など	須恵器、土師質土器小皿・杯・足釜、黒色土器碗、瓦質土器碗・捏鉢・甕、瓦器碗、フイゴ羽口、鉄滓、木製品（下駄・箸・漆椀・曲物）、硯	坂出市 1993
17	平成６年度	第１７次調査	市教委	17㎡	なし	なし	坂出市 1995
18		第１８次調査	市教委	6㎡	７世紀後半の柱穴、８世紀頃の溝状遺構など	土師器皿、須恵器杯、縄文土器、サヌカイト製石器	坂出市 1995
19		第１９次調査	市教委	7㎡	なし	なし	坂出市 1995
20		第２０次調査	市教委	7㎡	平安時代末～鎌倉時代の柱穴・溝状遺構など	土師質土器足釜など	坂出市 1995
21	平成７年度	第２１次調査	市教委		古代？の溝状遺構、中世？の柱穴など	平瓦片など	坂出市 1996
22	平成１１年度	第２２次調査	市教委	27.5㎡	１０世紀末頃の土器溜り、１２世紀後半の土壙墓、１５～１６世紀頃の溝状遺構など	土師器皿・杯、土師質土器小皿・杯・足釜・擂鉢、中国製青磁椀、短刀	坂出市 2002
23	平成１３年度	第２３次調査	市教委	16㎡	１２世紀後半頃の柱穴・土坑・溝状遺構・集石遺構など	土師質土器小皿・杯・小壺、瓦器碗など	坂出市 2003
24	平成１５年度	第２４次調査	市教委	2㎡	包含層	須恵器碗、黒色土器など	坂出市 2004
25	平成１６年度	第２５次調査	市教委	10㎡	なし	なし	坂出市 2005
26	平成１９年度	第２６次調査	市教委	4.5㎡	１１世紀以降の柱穴・溝状遺構・集石遺構	土師質土器小皿・杯、黒色土器碗、白磁など	坂出市 2008
27	平成２１年度	第２７次調査	県埋蔵文化財センター	45㎡	１１世紀後半の水田、１２世紀後半～１３世紀前葉の建物群、１８世紀後半の水田	土師質土器小皿・杯、黒色土器碗、緑釉陶器、灰釉陶器、中国製磁器（白磁・青磁）、布目瓦、土錘、鉄滓など	香川県 2010
28	平成２２年度	第２８次調査	県埋蔵文化財センター	38㎡	１３世紀の溝状遺構、１０世紀後半～１２世紀の石列状遺構	須恵器、土師器、黒色土器碗、緑釉陶器、中国製磁器（白磁・青磁）杯・碗・小皿・杯、布目瓦、獣骨、「夫」刻書土器	本稿

第１表　讃岐国府跡調査地一覧表

整理作業は、発掘調査期間中の平成23年1月4日に開始し、同年3月31日に終了した。遺物洗浄、遺物注記、遺物復元、実測遺物抽出、遺物実測、遺構・遺物図面トレース、レイアウト、遺物写真撮影、遺物観察表作成、原稿執筆、編集、台帳整備、収納などの作業を行った。整理作業に従事した人員は4名で、遺物量は28リットル入りコンテナ12箱である。

第２節　既往の調査

周知の埋蔵文化財包蔵地としての「讃岐国府跡」は、坂出市府中町本村地区において綾川がほぼ直角に流れを変える付近を東・南限とした東西約600ｍ、南北約700ｍの範囲とされている。この範囲内には、白鳳期の創建とされる古代寺院の開法寺跡（周知の埋蔵文化財包蔵地としては「開法寺塔跡」と「開法寺遺跡」）が含まれている。鼓岡神社の所在する丘陵の南側で坂出市教育委員会の調査が行われ、塔・講堂・僧坊・回廊などの遺構が確認され、大量の瓦などが出土している。

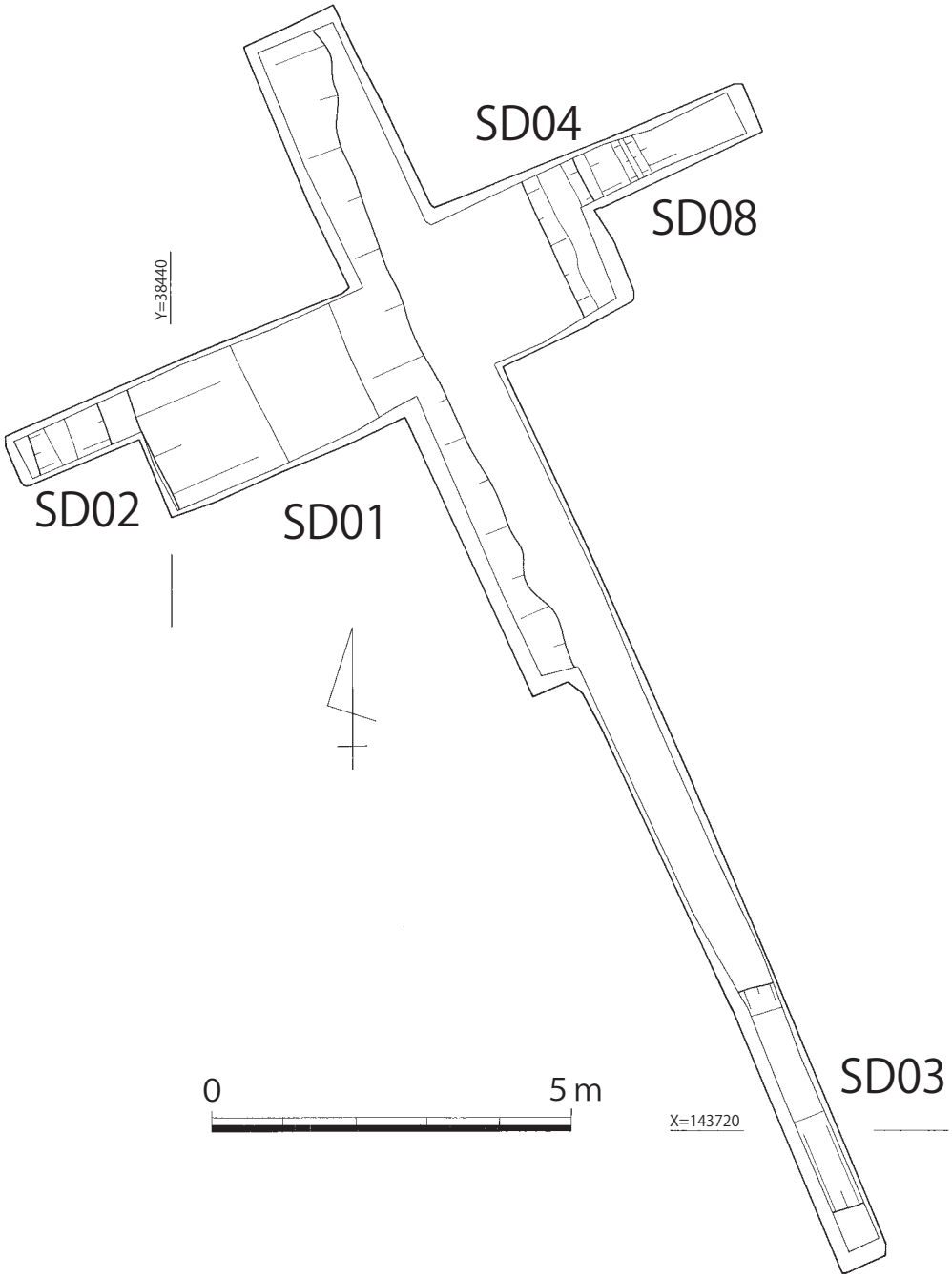
「讃岐国府跡」の調査は、昭和51年度の坂出市教育委員会の調査を初めとして、昭和50年代の香川県教育委員会による範囲確認調査や坂出市教育委員会による開発に伴う事前調査が実施されてきた。これらの調査地は「セイリュウ」の呼称を持つ市道を中心に、ＪＲ予讃線と鼓岡神社の間に集中する結果となっている。ほとんどの調査地において、平安時代後期から鎌倉時代の遺構・遺物が検出されるのに対し、国府が創建されたとされる奈良時代頃の遺構は第１・６・18次の３地点と少ない。遺物も、硯や墨書土器、緑釉陶器、布目瓦など、寺院や官衙的な施設を示唆するようなものも見られるが、溝状遺構や包含層から散在的に確認されているに過ぎない。このように国庁を含めた周辺官衙群の様相などについては明らかになっていないのが現状である。

第２章　調査の成果

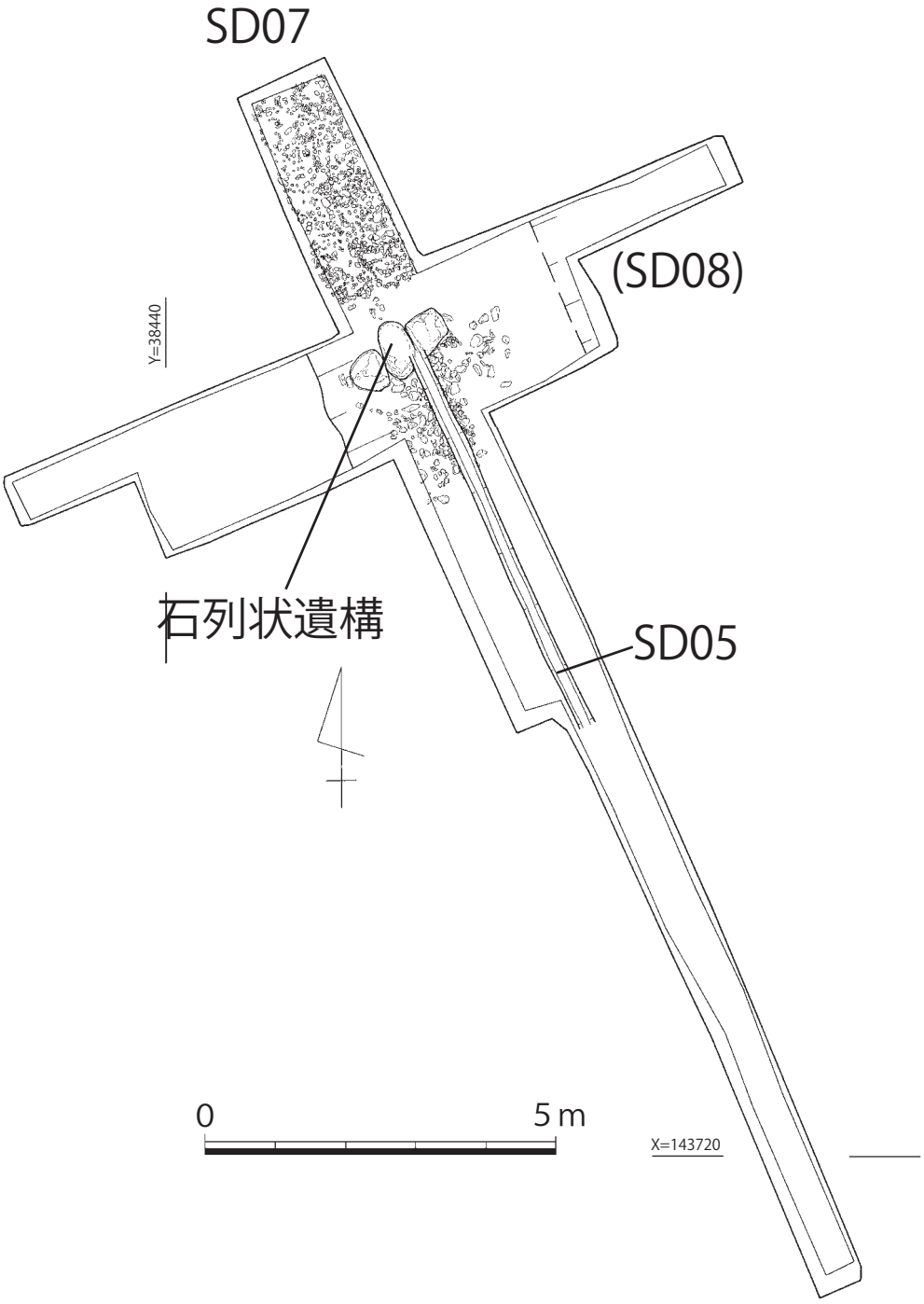
第１節　地形と土層序

今年度の調査地は、坂出市府中町5175番地で、現況は水田として土地利用されている。昨年度調査（第28次）地の東方約150ｍに位置し、南西約50ｍには第３次調査地点がある。城山山麓から綾川に向かって派生する尾根のひとつで、末端付近にあたるため、東に下る緩斜面地に位置している。周辺は階段状に開墾され、主に田畑として使われており、調査地の東隣は約60㎝の比高差を持つ水田が南北に連なっている。調査地の現地表面は標高14.7ｍを測る。

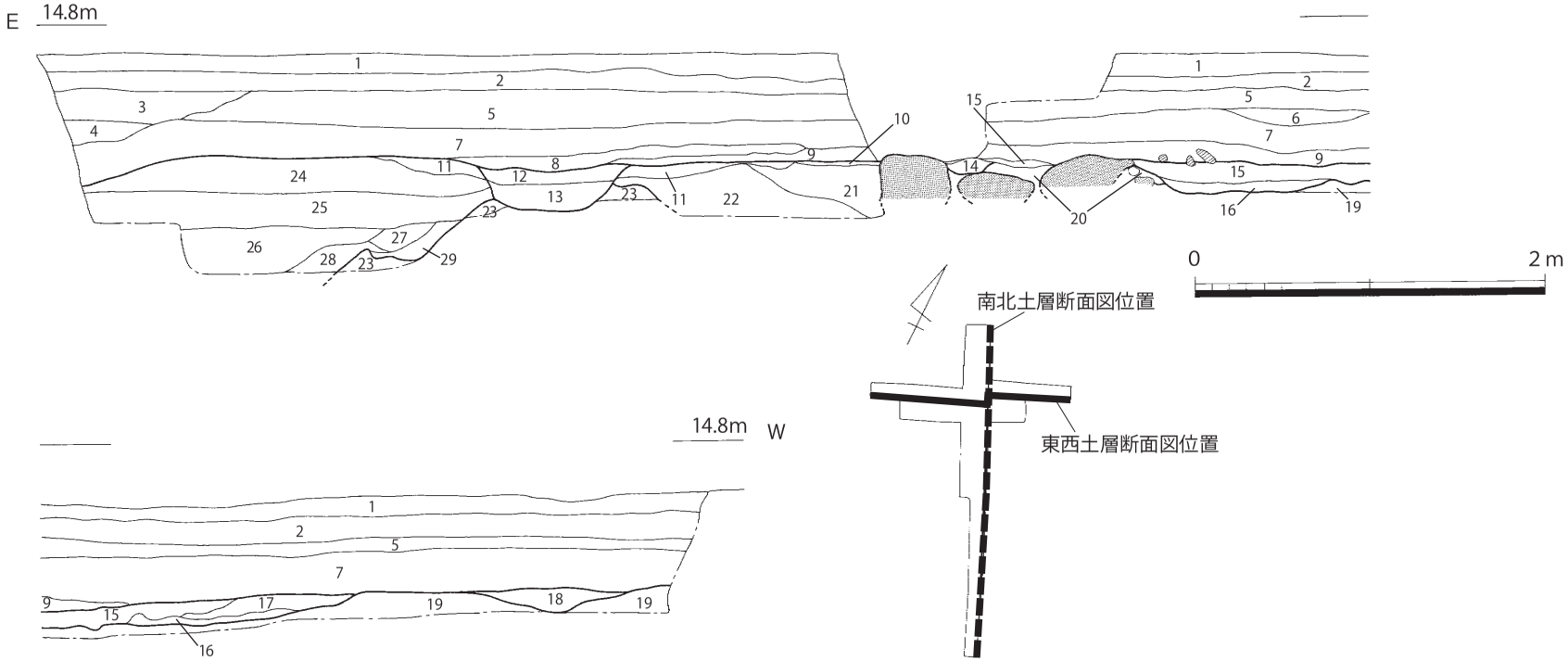
調査地点の基本土層序は、上から順に橙色混細砂粘質土（Ⅰ層）、明褐灰色混細砂粘質土（Ⅱ層）、明褐灰色混細～中砂粘質土（Ⅲ層）、褐灰色混中砂粘質土（Ⅳ層）が調査区全体にわたって、ほぼ水平堆積をしている。その下位には調査区の南・東端部付近では途切れるが、灰色粘土（Ⅴ



第２図　遺構配置図①

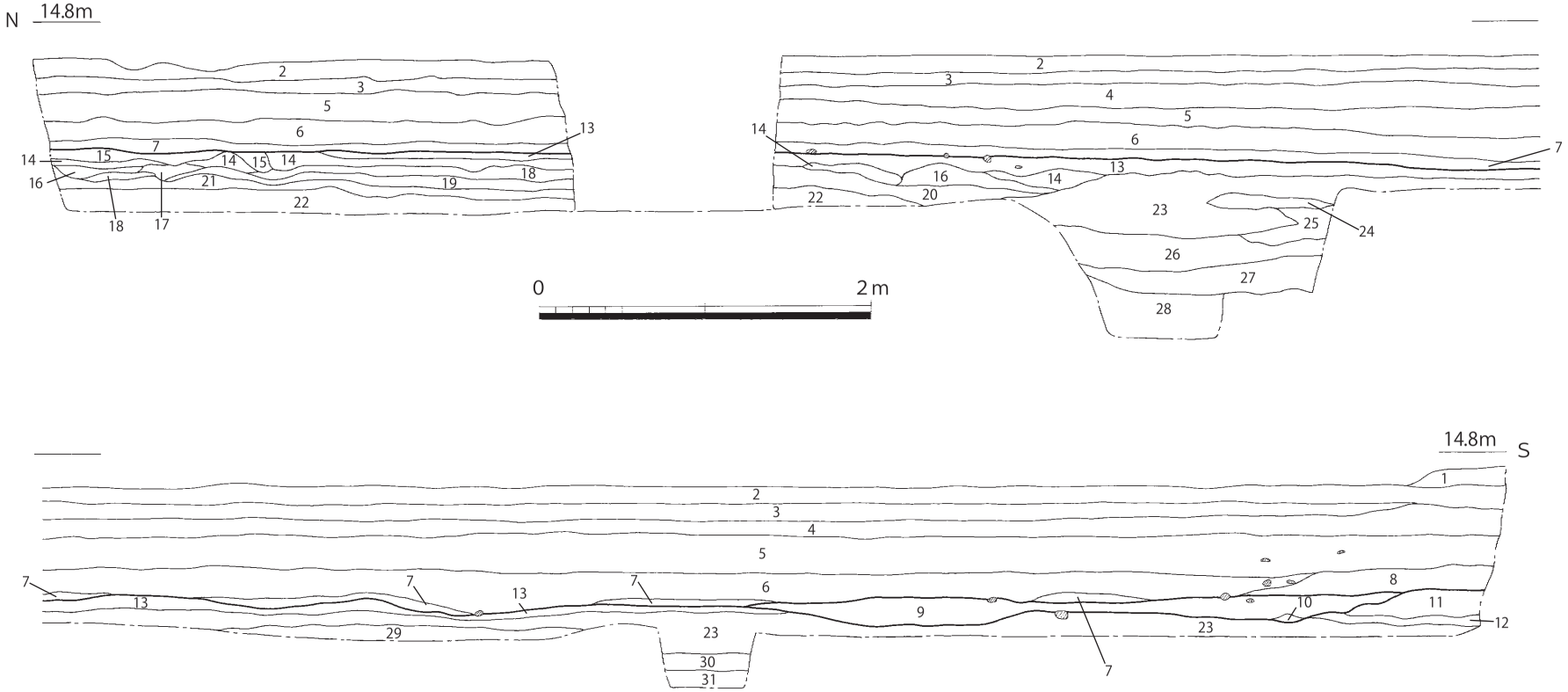


第３図　遺構配置図②



1．橙色混細砂粘質土（5YR7/6）　包含層Ⅰ層
2．明褐灰色混細砂粘質土（5YR7/1）　包含層Ⅱ層
3．灰褐色混細砂粘質土（7.5YR6/2）
4．褐灰色混細砂粘質土（10YR6/1）
5．明褐灰色混細～中砂粘質土（7.5YR7/1）　包含層Ⅲ層
6．灰白色混細～中砂粘質土（10YR7/1）
7．褐灰色混中砂粘質土（5YR5/1）　包含層Ⅳ層
8．灰色混細砂粘土（5Y6/1）
9．灰色粘土（5Y5/1）　包含層Ⅴ層
10．青灰色混中砂粘質土（5BG）
11．オリーブ灰色中砂（5GY）
12．灰色混細砂粘土（N5/）　SD04 埋土
13．オリーブ灰色中～粗砂（2.5GY）　SD04 埋土
14．黄灰色混細砂粘質土（2.5Y6/1）　SD05 埋土
15．オリーブ黒色粘土（7.5Y3/1）　SD01 埋土
16．灰オリーブ混細砂粘質土（5Y6/2）　SD01 埋土
17．黒褐色混細砂粘土（10YR3/1）　SD01 埋土
18．黒褐色混細砂粘質土（10YR3/1）　SD02 埋土
19．明黄褐色混砂粘土（2.5Y7/6）　地山層
20．灰オリーブ中砂（7.5Y6/2）
21．青灰色中～粗砂質土（10BG5/1）
22．灰白色弱粘性粗砂（7.5Y7/1）
23．浅黄色（混砂）粘質土（5Y7/3）　地山層
24．灰白色混細～中砂粘質土（5Y6/1）　SD08 埋土
25．緑灰色シルト（7.5GY6/1）　SD08 埋土
26．オリーブ灰色混中砂粘質土（2.5GY6/1）　SD08 埋土
27．オリーブ灰色シルト（5GY6/1）　SD08 埋土
28．灰色シルト（N5.）　SD08 埋土
29．明オリーブ灰色中砂質土（2.5GY7/1）　SD08 埋土

第４図　調査区東西土層断面図



1．灰色粘質土（N5/）耕作土
2．橙色混細砂粘質土（5YR7/6）　包含層Ⅰ層
3．明褐灰色混細砂粘質土（5YR7/1）　包含層Ⅱ層
4．明褐灰色混細～中砂粘質土（7.5YR7/1）　包含層Ⅲ層
5．褐灰色混中砂粘質土（5YR5/1）　包含層Ⅳ層
6．褐灰色混細砂粘質土（5YR6/1）　包含層Ⅳ層
7．灰色粘土（5Y5/1）　包含層Ⅴ層
8．浅黄色細～中砂質土（5Y7/3）
9．暗灰色粘土（N3/）　SD03 埋土
10．明緑灰色粗砂（7.5GY7/1）　SD03 埋土
11．オリーブ灰色中砂質土（2.5GY6/1）
12．明緑灰色粗砂（7.5GY７/1）
13．青灰色中砂質土（10BG6/1）　上面に鉄分が強く沈着
14．灰白色細砂（2.5Y7/1）
15．灰色細～中砂（5Y5/1）
16．黄灰色粗砂（2.5Y5/1）
17．灰白色シルト（2.5Y8/1）
18．灰色細～中砂（5Y6/1）
19．灰白色中～粗砂（2.5Y7/1）
20．黄灰色粗砂 (2.5Y4/1)
21．灰白色シルト（2.5Y8/1）
22．灰黄色粗砂（2.5Y7/2）
23．明オリーブ灰色シルト（5GY7/1）
24．灰白色粗砂（7.5Y7/1）
25．オリーブ灰色シルト（2.5GY6/1）
26．灰白色粗砂（10Y8/1）と灰色粘土（10Y6/1）の互層
27．灰白色細砂（5Y7/1）
28．オリーブ黒色粘土（5Y3/1）
29．暗灰色粘土（N3/）
30．緑灰色シルト (7.5GY6/1)
31．灰白色中～粗砂（10Y7/1）

第５図　調査区南北土層断面図

層）が堆積している。これらの遺物包含層のうちⅠ～Ⅳ層は、マンガンや鉄分の連続した沈着がみられることや水平堆積の状況から、水田として土地利用されたことが想定される。ただし明確な畦畔等の遺構は認められなかった。

遺構は、Ⅴ層の直下、現地表から約 1.3 m下位で検出している。遺構検出面では調査区の大半が複数の時期の異なる溝状遺構の埋土で占められていたが、調査区西寄りで検出した浅い溝状遺構（ＳＤ 01・02）の直下には地山層である明黄褐色混砂粘土を確認した。調査区東寄りでは、遺構検出面から約 1.3 m下位の溝状遺構の底面などで、地山層がグライ化したものと思われる青灰色混砂粘土や青黄色混砂粘土を確認しており、溝状遺構が構築される前は地山の粘土層が東に向かって緩やかに傾斜していた様子が想定される。

第２節　遺構・遺物

調査の結果、溝状遺構７条と石列状遺構１基の遺構を検出した。

調査区が狭小であるため、遺構の全体の形状や規模が判明したものは小規模な溝状遺構（SD02・04・05）など数えるほどしかない。とりわけ、規模の大きな溝状遺構については、片側の肩部を部分的に検出するにとどまり、石列状遺構に伴う礫敷きの保存のため、良好な個所での下部の掘り下げがかなわず、基礎データの採取に留まった部分が多い。

このため、溝状遺構と判断した遺構の中には、他の遺構が含まれる可能性もあるが、今回は溝状遺構として報告する。

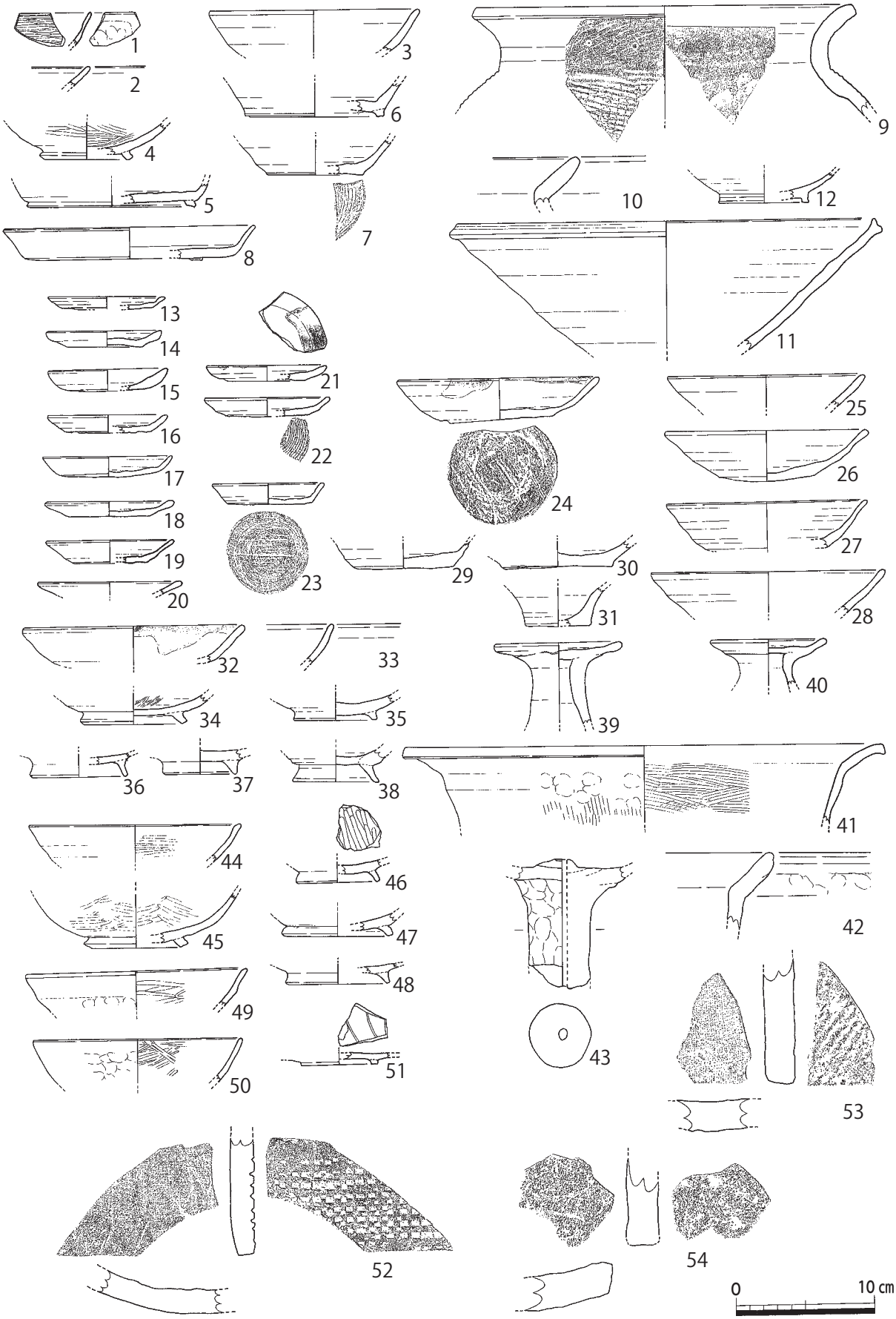
なお、本書で用いる遺構名・遺構番号は、調査時に呼称したものをそのまま使用した。そのため、整理作業の過程で遺構ではないと判断したＳＤ 06 は欠番のままで報告している。

ＳＤ 01

調査区の中央から西半にかけて検出したＮ 24° Ｗの方向を有する溝状遺構である。断面形態は浅い皿状を呈しており、底面は比較的平らに整形されている。遺構の重なり具合からＳＤ 07・05 の埋没後に設けられていることがうかがえる。幅 4.0 m、深さ 0.2 m、検出長は 1.8 mを測る。埋土は概ね上下２層に大別され、上層は粘性の強いオリーブ黒色粘土で、下層は黒褐色～灰オリーブ色混砂粘質土である。砂・シルト層はまったく認められないことから、流水があったとは想定しづらく、滞水状態のままで埋没していった状況が復元される。

このSD01 の埋土は、後述する石列状遺構の西端の石を被覆しており、石列状遺構の年代決定の下限を示している。

遺物は須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・瓦・サヌカイト・獣骨などが出土した。土師器の中では小皿・杯類が比較的目に付く。土師器杯 21 は内面に煤が付着しており、灯明皿に用いられたことが分かる。土師器杯 24・32 も内面の一部に煤が付着している。24 は底面に籾圧痕が１

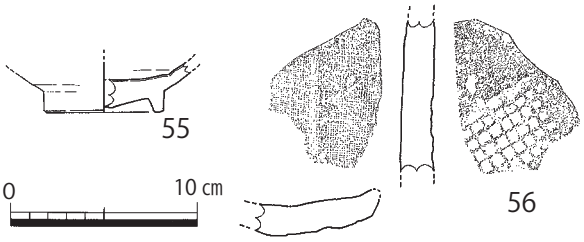


第６図　ＳＤ 01 出土遺物実測図

つ確認された。９～10 世紀代に位置づけられる須恵器杯６・７や須恵器皿８、京都産と思われる緑釉陶器椀 12、古代に属する平瓦 52 ～ 54 などの下層遺構から混入した遺物も認められるが、土師器や黒色土器の年代観から、12 ～ 13 世紀にかけて埋没した溝状遺構と判断できる。

ＳＤ 02

調査区の西端付近で検出したＮ 24° Ｗの方向を有する溝状遺構である。断面形態は浅い逆三角形を呈している。溝状遺構ＳＤ 01 とは約 50㎝の間隔で平行しているとみられる。幅 1.1 ｍ、深さ 0.15 ｍ、検出長は 0.6 ｍを測る。埋土は黒褐色混細砂粘質土で、SD01 の埋土と酷似する。



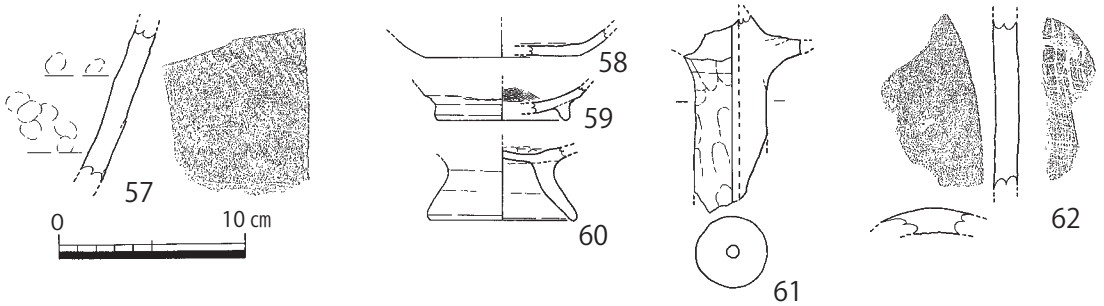
第７図　ＳＤ 02 出土遺物実測図

遺物は僅少だが、須恵器･土師器･白磁･瓦･獣骨が出土した。古代の平瓦 56 も含まれているが、白磁椀 55 の年代観から、13 世紀代に埋没したものと判断でき、ＳＤ 01 と同時期に機能した溝状遺構と考えられる。

ＳＤ 03

調査区の南端付近で検出したＮ 64° Ｅの方向を有すると思われる溝状遺構である。浅いＷ字状を呈している。幅 4.0 ｍ、深さ 0.1 ～ 0.2 ｍ、検出長は 0.5 ｍを測る。埋土は暗灰色粘土で底面の一部に明緑灰色粗砂が堆積している。SD01 の埋土とは類似している。

遺物は須恵器・土師器・瓦・土製品などが出土した。遺物量は少ないが、土師器椀 59 や土師器高台付き椀 60 の年代観から、12 ～ 13 世紀代に埋没したものと思われる。規模や埋土が類似するＳＤ 01 と同時期であり、方向もほぼ直交することから、ＳＤ 01 が直角に屈曲したものか、ＳＤ 01 と直角に交差する溝状遺構の可能性がある。

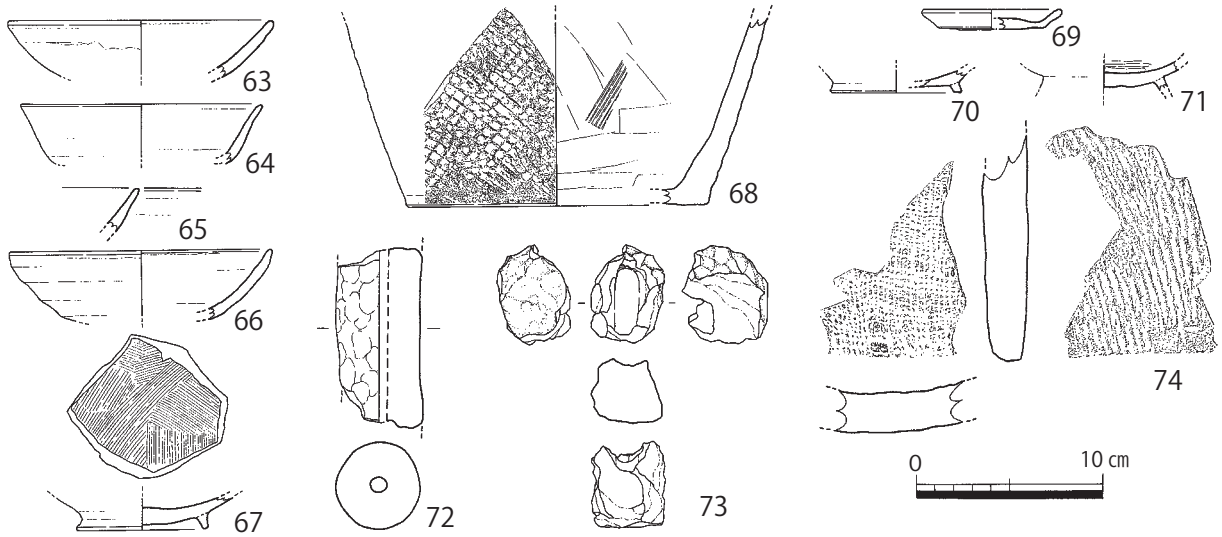


第８図　ＳＤ 03 出土遺物実測図

ＳＤ 04

調査区の東寄りで検出したＮ 24°Ｗの方向を有する溝状遺構である。断面形態は逆台形状を呈しており、底面は平らに整形されている。先行する溝状遺構ＳＤ 07 の東肩部及びＳＤ 08 の西肩部を掘り込んでいるため、ＳＤ 07・08 の先後関係を不明なものとしている溝状遺構である。幅 0.8 m、深さ 0.3 m、検出長は 2.1 mを測る。埋土は上下２層に分かれ、上層は灰色混細砂粘土で、下層はオリーブ灰色中～粗砂が堆積している。

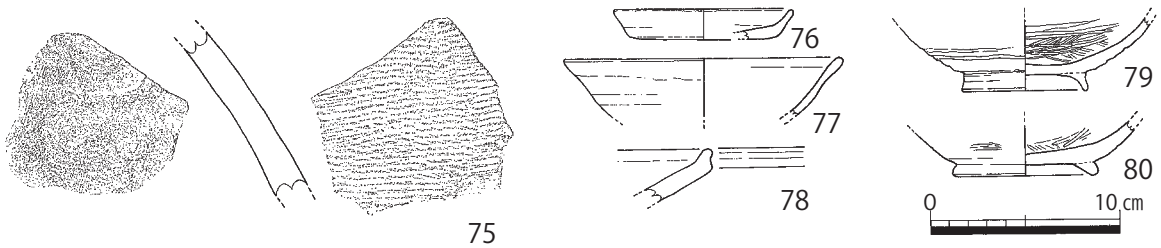
遺物は須恵器・土師器・黒色土器・瓦・土製品などが出土した。十瓶山窯跡産須恵器 63・66 や土師器小皿 69 などの年代観から、12 ～ 13 世紀代に埋没した溝状遺構と判断できる。



第９図　ＳＤ 04 出土遺物実測図

ＳＤ 05

調査区の中央部で検出したＮ 24°Ｗの方向を有する溝状遺構である。断面形態は浅い逆台形状を呈しており、底面は比較的平らに整形されている。先行する溝状遺構ＳＤ 07 の最終埋没層である粗砂層を掘り込んで作っており、北端は石列状遺構の中央の石で終わっている。石列状遺構より北は土層が不整形に乱れており、溝状遺構の体を成していない。幅 0.3 m、深さ 0.15 m、検出長は 5.8 mを測る。埋土は黄灰色混細砂粘質土の単一土層である。



第 10 図　ＳＤ 05 出土遺物実測図

遺物は僅少であるが、須恵器・土師器・黒色土器・サヌカイトなどが出土した。古代の須恵器甕75などの混じり込みもみられるが、土師器小皿76や黒色土器椀79・80の年代観から、12世紀代に埋没したものと判断できる。

石列状遺構

調査区の中央部分で確認した礫敷きと石列からなる遺構である。溝状遺構ＳＤ07の埋土上層の下位の粗砂層の堆積後（９世紀以降）、ＳＤ07がほとんど埋まった段階に礫敷きを行い、その上に３つの塊石を東西方向を意識して並べている。礫敷きは石列の南約３ｍ付近から調査区北端にかけて約７ｍを確認したが、さらに北方に続くことが想定される。拳大前後の亜角礫・亜円礫を平面を上方に向けるように敷いており、礫の間には部分的に灰白色シルト層が堆積していた。石列南方では、拳大から小児頭大の亜角礫・亜円礫を敷いており、石列に接して直下に入り込んでいる状況を確認した。南端から石列に向かって緩やかに登る傾斜が見られることや、石の上面が不揃いであること、石の並べ方が縦方向や横方向など乱れていることから、当初は面的に敷いたものが、埋没時の粗砂の勢いで北に動かされ、石列によってせき止められた状態で埋没したものと思われる。また、石敷き南端付近では調査時には自然堆積と判断した拳大の礫の面的な堆積があり、遺構保護のため断割り調査はできていないが、石列北方の礫敷きと連続する可能性があり、南方の礫敷きは二重構造をしていた可能性が想定される。石列は50～60㎝大の直方体状の安山岩の塊石を接するように並べたもので、Ｎ55°Ｅの方向を有する。ＳＤ07や周辺に残る地割りの方向とは合致せず、約78°東へ振る形となる。中央に縦長の石を流路方向に合わせて置いたあと、両側に対面する面を揃えるように上面の高さをそろえた石を置いている。石列の周囲は粗砂層（上位の粗砂層）が堆積しており、石を設置するための掘り込み（掘り方）は認められないことや南方の礫敷きが直下に接していることから、礫敷きと石列は一連のものと判断した。

礫敷き中からは、須恵器椀83、須恵器蓋89、緑釉陶器椀114・115、白磁椀116、土師器杯136、黒色土器椀155・157、瓦164・169などの９～10世紀代の遺物が出土しており、石列状遺構の構築年代は10世紀代に求めることができる。

この遺構の性格については、県内では調査例がないため、奈良文化財研究所文化遺産部景観研究室長の清水重敦氏を招聘して、遺構を実見していただいた。清水氏からは①建物の礎石とするには地盤である粗砂層が脆弱で適さない、②中央の石を１段下げて両側の面を向かい合わせて揃えていることから板塀状の遮蔽施設の下部に水を通すための施設の基礎、③溝状遺構を東西方向で通行するための飛び石、あるいは木橋状の施設の基礎、との御意見・御指摘を得た。清水氏に見聞いただいた段階では石列のみを確認した状態であり、その後、完掘状態の遺構の写真を見ていただいたが、類例に心当たりはないとのことであった。調査の結果、石列の両側に塀などの遮蔽施設の痕跡は認められなかったため、通水施設ではないと思われる。調査範囲の狭い現状では、

第 11 図　石列状遺構平・断面図

地固め（地行）を伴う橋の基礎や飛び石、建物礎石、水を使用した苑池状施設などの可能性を指摘するにとどめ、今後の類例の増加に期待したい。

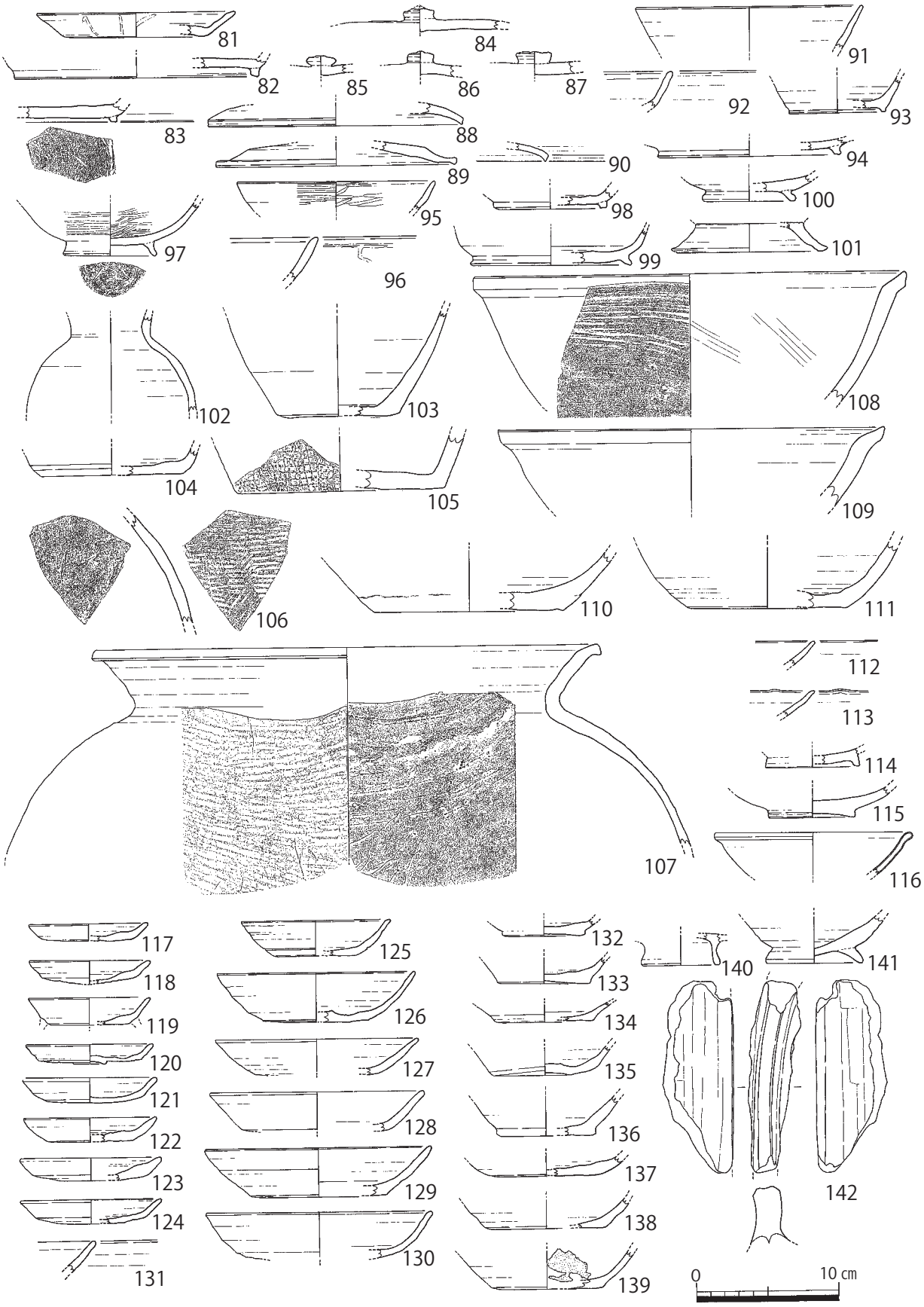
ＳＤ 07

調査区の中央を南北に貫くように検出したＮ 24° Ｗの方向を有する溝状遺構である。断面形態については、断ち割り調査を実施しようとした部分に石列状遺構が出土したため、遺構保護のためにかなわず、確認できていない。また、調査区の湧水が著しく、かつ分厚く堆積した粗砂層の崩落の危険性が高いこともあり、溝状遺構の底面については調査区中央で一部を掘り下げて確認するにとどめた。このため、肩部から底面まで連続した壁面の土層断面図を作成することができず、約３ｍの距離を隔てた２つの図面から規模・土層を判断している。幅約 4.0 ｍ、深さ 1.3 ｍ、検出長は 19.0 ｍを測る。埋土は、概ね３層に大別され、両肩付近に下層の褐灰色～明オリーブ灰色シルト、このシルト層を掘り込むように中層に青黒色粘土、上層に灰白色～灰褐色粗砂が堆積している。上層の粗砂層は石列状遺構に伴う礫層（礫敷き）を境に上下に大別できるが、下位の粗砂層には間層のラミナ層が存在するなどの状況があり、さらに細分することが可能と思われる。東に隣接する溝状遺構ＳＤ 08 との先後関係については、両方の溝状遺構が重なるであろう東肩部分に後世の溝状遺構ＳＤ 04 が掘られており、それによって崩されているため明らかにすることはできなかった。

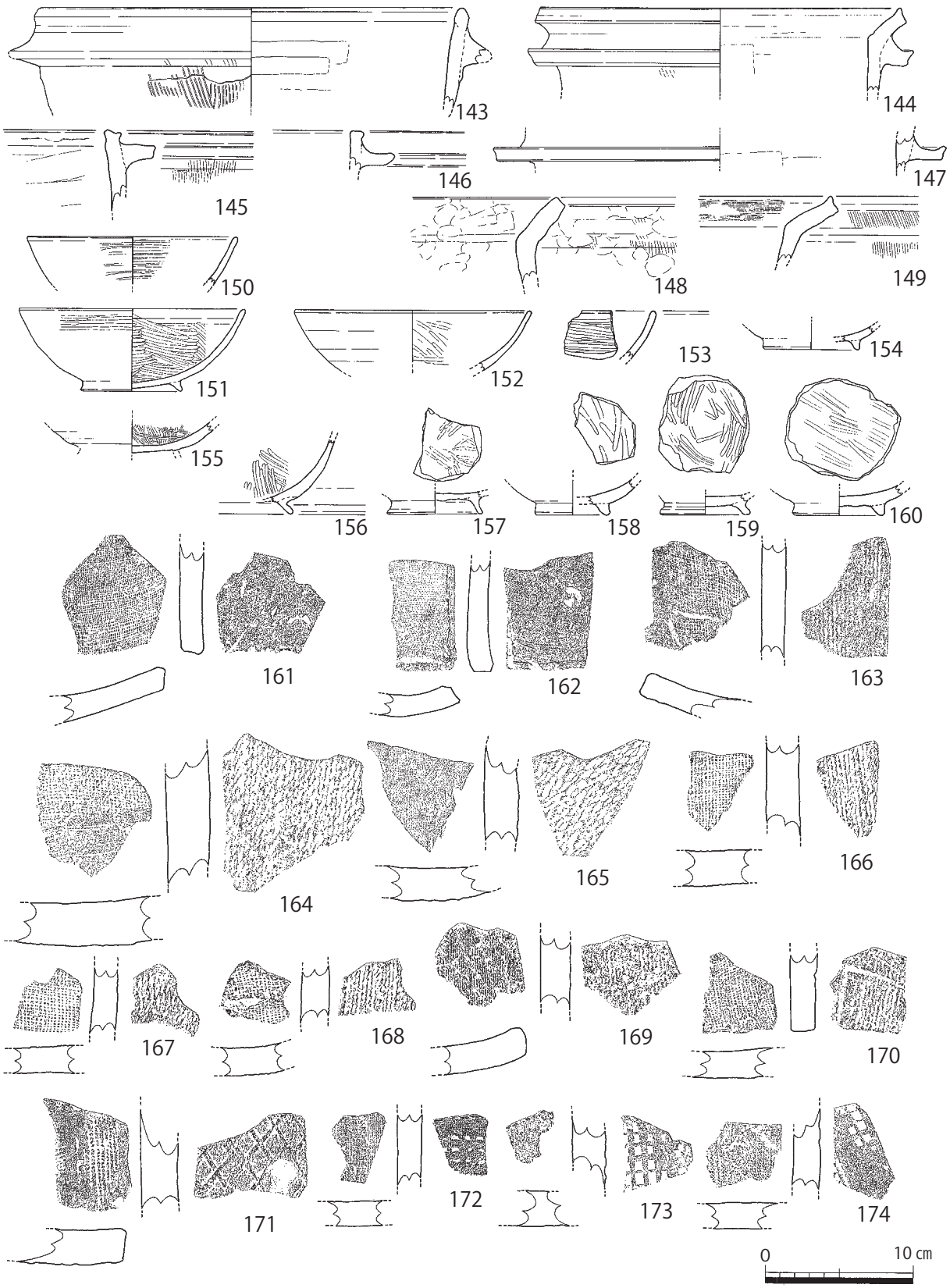
遺物は須恵器・土師器・黒色土器・緑釉陶器・白磁・瓦・サヌカイト・スラグ片・自然木などが出土した。層位別にみていくと、下層のシルト層中から出土した遺物量は僅少だが、須恵器蓋 86・90、須恵器椀 96、須恵器甕 107、土師器杯 134 などの８～９世紀代の遺物が含まれており、溝状遺構の埋没開始時期が８世紀代にさかのぼる可能性を示唆している。中層の粘土層からの出土遺物には、須恵器蓋 84・85、須恵器甕 106 など９世紀代のものが含まれているが、遺物量は僅少である。この層を形成する粘土は草本質であり、この層にだけ自然木（枝など）が含まれていた。最も遺物出土量が多いのは、上層の粗砂層である。礫敷き上位からの遺物量が大半を占めており、下位からの出土量は少ない傾向がある。上位の粗砂層からは、前代の遺物も若干量含まれているが、十瓶山窯跡産須恵器椀 95、須恵器鉢 109、土師器小皿 117 ～ 124、土師器杯 125 ～ 130、土師器椀 141、土師器羽釜 146・147、黒色土器椀 151・156・160、瓦類の大半などの 12 世紀代のものがある。手持ち砥石 179 も上位の粗砂層に含まれていた。下位からのものには、須恵器皿 81、須恵器杯 91、須恵器椀 98・99、須恵器壷 104、緑釉陶器椀 113、土師器杯 135、瓦 162・174 など、９世紀代を中心とした８～９世紀代の遺物が出土している。

ＳＤ 08

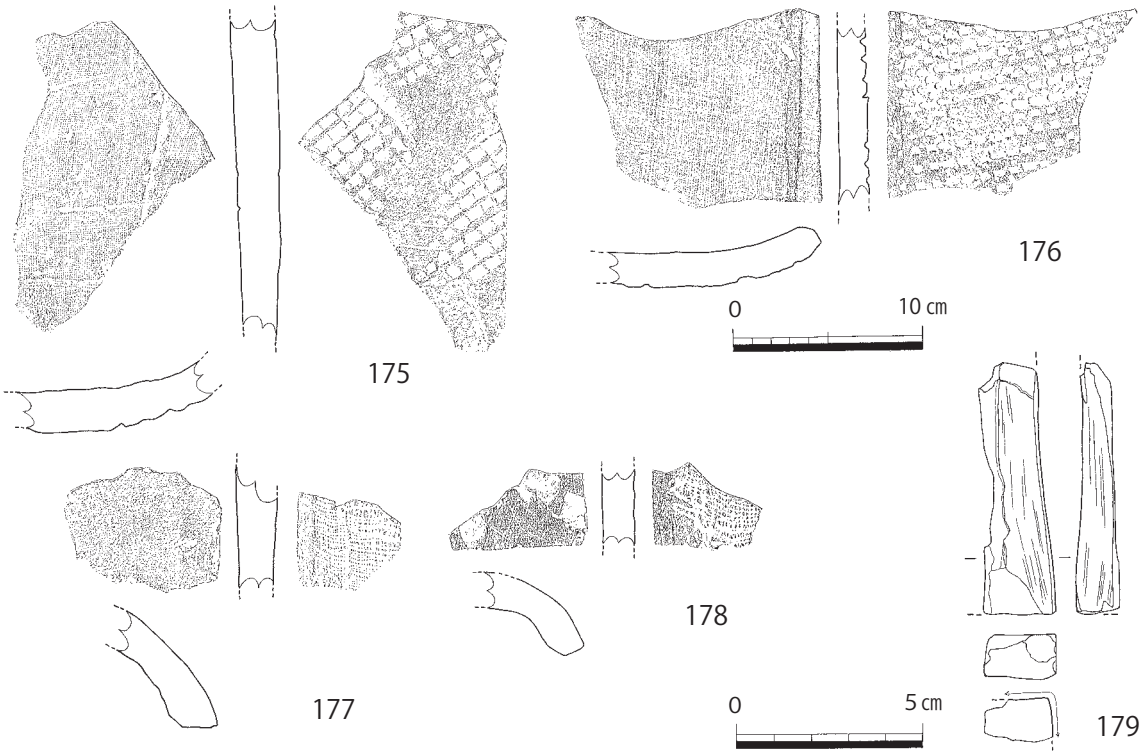
調査区の東端付近で検出したＮ 24° Ｗの方向を有する溝状遺構である。東肩部は調査区外へ続くものとみられる。激しい湧水と粗砂層の堆積という悪条件による壁面崩落に伴うコンクリート畦畔と用水路の崩壊を避けるため、底面までの掘り下げが実施できなかった。このため、断面形態や詳細な規模についての確認はできていない。現況で幅３ｍ以上、深さ 0.8 ｍ以上、検出長は



第 12 図　ＳＤ 07 出土遺物実測図①



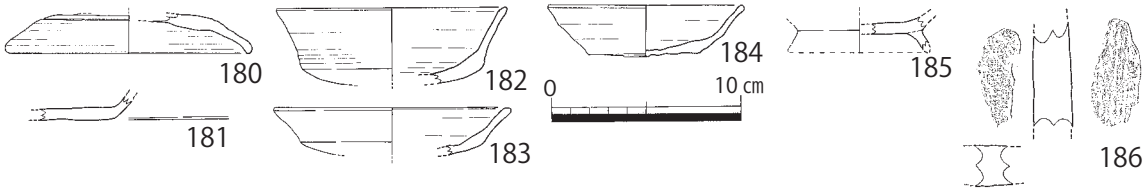
第 13 図　ＳＤ 07 出土遺物実測図②



第 14 図　ＳＤ 07 出土遺物実測図③

0.7 mを測る。西に隣接する溝状遺構ＳＤ 07 との先後関係については、西肩部を溝状遺構ＳＤ 04 によって崩されているため、判明しなかった

遺物は須恵器・土師器・黒色土器・瓦・サヌカイトなどが出土した。遺物量は僅少で、現状での下層のオリーブ灰色混中砂粘質土から出土している。須恵器蓋 180 や須恵器杯 181 などの 9 世紀代の遺物や古代の平瓦なども認められるが、土師器杯 182・184 など 12 世紀代のものもみられることから、現状では 9 世紀代以前に開削され 12 世紀代に埋没途上にあったものと判断しておきたい。



第 15 図　ＳＤ 08 出土遺物実測図

包含層出土の遺物

遺物包含層のうちⅠ～Ⅳ層は、堆積状況などから水田として土地利用されたと想定できることを先述した。ここでは各々の層位からの特徴的な遺物を掲載している。

187はⅠ・Ⅱ層、188～191はⅢ層、192～208はⅣ層、209～221はⅤ層、222～232はⅤ層下から出土したもの、233～242は壁面清掃中など層位不明のものである。

Ⅰ・Ⅱ層は染付磁器椀187の年代観から17世紀代と想定される。Ⅲ層からは底面に穿孔1個を施した古代の土師器椀189や、13世紀代の土師器椀190などもみられるが、小破片ながら15世紀代とみられる土師器土釜が出土していることから、15世紀代の年代が想定される。Ⅳ層でも古代の平・丸瓦や12世紀代の十瓶山窯跡産須恵器椀207があるが、多いのは13世紀代の土師器小皿193や土師器杯196などである。層の厚みから13～15世紀の間に堆積したことが想定される。Ⅴ層は層厚が薄い割りに遺物量は多い傾向がある。8世紀代の須恵器高杯211（「夫」状の刻書あり）や古代の平・丸瓦、12世紀代の十瓶山窯跡産須恵器椀210や十瓶山窯跡産須恵器壷213などがみられるが、多いのは土師器小皿214などの13世紀代の遺物であり、溝状遺構ＳＤ01埋没に連続して堆積したものと思われる。Ⅴ層下から出土したものについては、溝状遺構ＳＤ07の最上層の埋土（石列状遺構の礫敷きを覆い尽くした灰白色系粗砂）と溝状遺構ＳＤ01の掘り残しの土から出土した遺物が混在している可能性があり、ここに一括した。8～10世紀代の須恵器杯222、須恵器皿224、須恵器蓋225などは前者に、12～13世紀代の土師器小皿227、土師器杯228、黒色土器椀230などは両者に属する可能性がある。層位不明の包含層出土のものでは、11世紀代の十瓶山窯跡産須恵器壷233、13世紀代の白磁鉢236、白磁椀237、龍泉窯産青磁椀238などが特徴的な遺物としてみられる。土師器杯234の内面には漆と思われる皮膜が付着している。

第３章　まとめ

今回、平成22年度の調査では、奈良時代から鎌倉時代にかけての遺構と、旧石器時代から江戸時代にわたる遺物を検出した。

遺物の年代観から、遺構の変遷は次のように考えられる。

① 奈良時代（8世紀）に溝状遺構ＳＤ07が開削される。

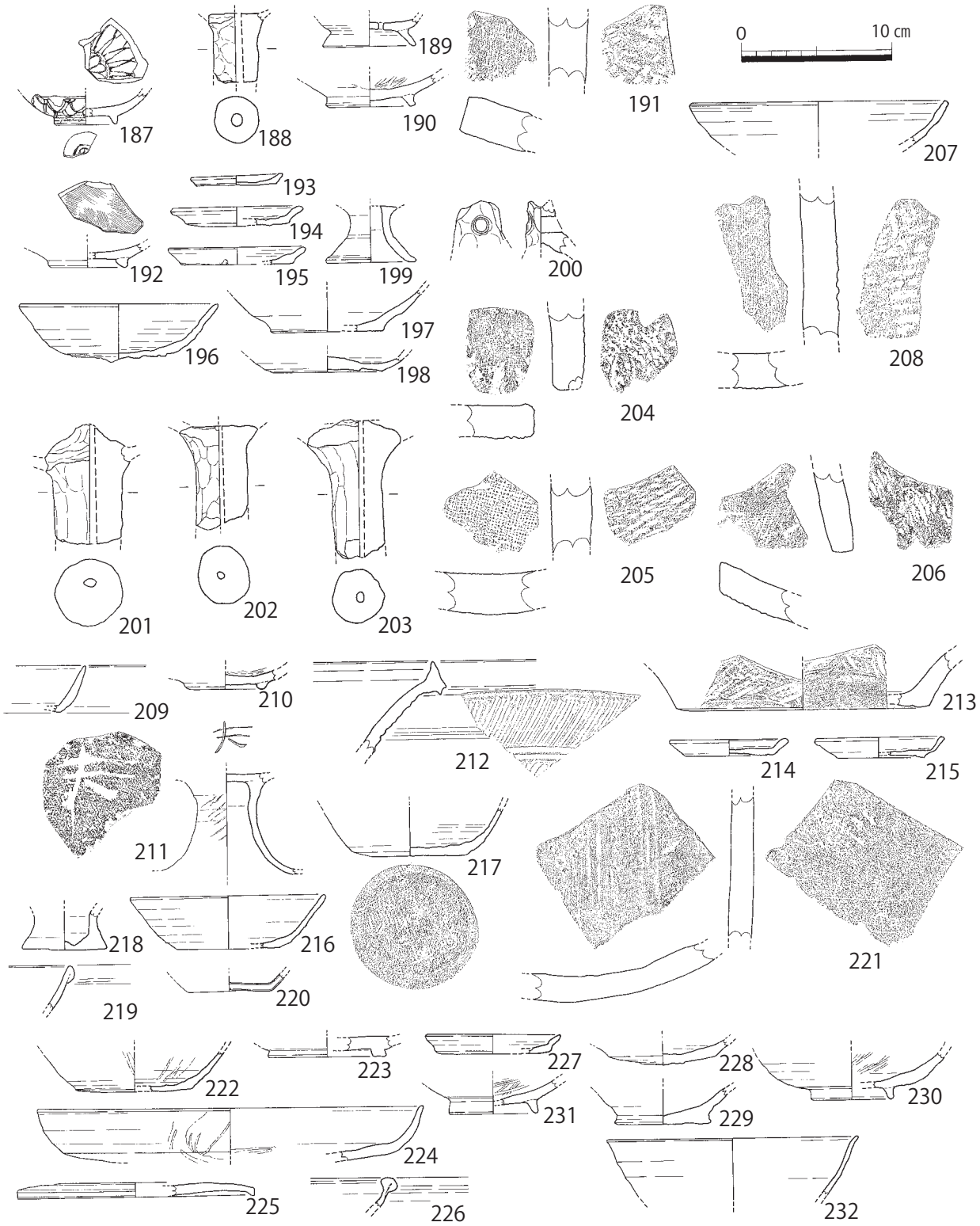
② 平安時代前半（10世紀頃）、ＳＤ07がほぼ埋まった頃に石列状遺構が設置され、ＳＤ08が開削される。

③ 平安時代末（12世紀頃）、石列状遺構を含めたＳＤ07は完全に埋没し、その後にＳＤ05が掘られる。ＳＤ08の埋没が進む。

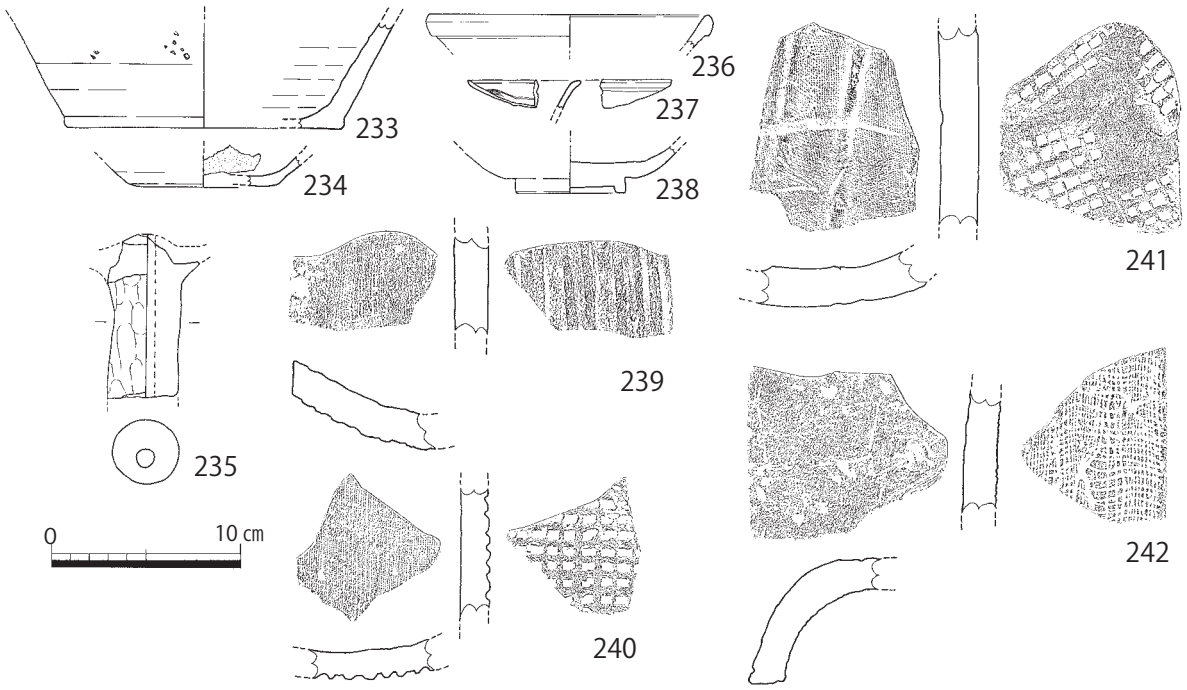
④ 鎌倉時代（13世紀頃）、ＳＤ01・02・03が掘られるが、13世紀代にほぼ埋没する。

⑤ これ以降は、水田耕作地として土地利用がなされる。

遺構は溝状遺構7条と石列状遺構1基であるが、溝状遺構の中でもＳＤ07・08は、幅約4ｍ



第 16 図　包含層出土遺物実測図①



第 17 図　包含層出土遺物実測図②

で深さ１ｍを超える大規模なもので、長期間にわたって機能していたことが分かった。また、南方へ延伸すると、推定「南海道」跡とされる市道と直行し、さらに昭和 51 年度の讃岐国府跡の調査で検出した溝状遺構が存在している。これらのことから、ＳＤ 07・08 は、当該地域を区画する基準線としての機能を持ち合わせていたことが想定される。石列状遺構の性格は特定できなかったが、この遺構が設置された地点は、推定「南海道」とＳＤ 07・08 の延長の交点から約 108 m北方の地点にあたり、条里制に伴う方格地割を意識して設置された可能性がある点は注意すべきであろう。

ＳＤ 07 からは緑釉陶器などとともに、古代の平・丸瓦が出土している。これらの遺物は磨耗がほとんど見受けられないことから、近辺の構築物で使用されたものと考えられる。ＳＤ 07 が機能していた８～ 10 世紀は、国庁が機能していたと想定される時期であり、国庁の各施設が礎石立ち瓦葺きの建物に建て替えられ周囲にめぐらした板塀が築地塀に変化すると調査例から指摘される９世紀代を含んでいる。さらに、国庁の外周に大規模な溝状遺構をめぐらす例が伊勢国府や伊賀国府でも確認されていることなどから、ＳＤ 01 の底面である非常に平坦で緩やかな面の形成がＳＤ 07 の時代に遡るとすれば、ＳＤ 07 の西側に隣接して築地塀が存在した可能性も十分に考えられよう。ＳＤ 07 の延伸を確認する調査は必要と思われるが、その際には西側の平坦地の存在にも十分注意をはらって調査すべきであり、面的に広げて確認することが必要と思われる。

遺　物　観　察　表

報文番号	報告遺構名	種類	器種	色調		胎土	法量				調整		残存率	備考
				外面	内面	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	外部	内部		
1	SD01	須恵器	椀	灰白 N8/	灰 N4/	細・少	(12.8)				回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ・回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	瓦質
2	SD01	須恵器	椀	灰 N4/	灰白 N8/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	西村産
3	SD01	須恵器	椀	灰白 N8/	灰白 N8/	細・少	(15.0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	西村産
4	SD01	須恵器	椀	灰白 N8/	灰白 N8/	細・少			(6.0)		ﾐｶﾞｷ・回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	貼り付け高台
5	SD01	須恵器	椀	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少			(11.8)		回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	混入品　貼り付け高台
6	SD01	須恵器	杯	灰白 N7/	灰白 N8/	細・少			(9.8)		回転ﾍﾗｹｽﾞﾘﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	貼り付け高台
7	SD01	須恵器	杯	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少			(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転糸切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	糸切り底
8	SD01	須恵器	皿	灰白 N7/	灰 5Y6/1	細・多			(15.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	
9	SD01	須恵器	甕	灰 N5/	灰 N5/	細・少	(26.8)				回転ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ後回転ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ	回転ﾅﾃﾞ・当て具痕を一部ﾅﾃﾞ消し	口縁部 1/8	口縁端部にゴマ状の自然釉　十瓶産
10	SD01	須恵器	甕	灰白 N7/	灰白 5Y8/1	中・多					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	焼成良好
11	SD01	須恵器	こね鉢	灰 N6/	灰 N6/	中・少	(29.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
12	SD01	緑釉陶器	椀	釉：灰白 10Y8/1	胎：灰白 7.5Y8/2	無			(6.4)		回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	施釉	底部 2/8	京都産　削り出し高台
13	SD01	土師器	小皿	灰白 2.5YR8/1	灰白 2.5YR8/1	細・少	(8.2)	(0.9)	(6.5)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
14	SD01	土師器	小皿	灰白 10YR8/2	灰白 2.5Y8/2	細・少	8.2	1.1	5.4		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 8/8	摩滅気味
15	SD01	土師器	小皿	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/2	細・少	(8.6)	1.5	(6.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
16	SD01	土師器	小皿	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	中・少	(8.5)	1.2	(4.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口頸部 3/8	灯明皿転用の可能性あり
17	SD01	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	中・少	(0.9)	1.5	7.0		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 7/8	
18	SD01	土師器	小皿	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少	(9.0)	1.1	(6.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
19	SD01	土師器	小皿	灰白 2.5YR8/1	灰白 2.5YR8/1	細・少	(9.0)	1.6	(5.2)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
20	SD01	土師器	小皿	浅黄橙 7.5YR8/6	浅黄橙 10YR8/4	細・少	(10.1)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
21	SD01	土師器	小皿	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	細・多	(8.6)	(1.1)	(5.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	灯明皿に転用　煤付着
22	SD01	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	(8.8)	1.3	(6.0)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	回転糸切り
23	SD01	土師器	小皿	浅黄橙 10YR8/4	浅黄橙 10YR8/4	細・少	7.8	1.5	5.9		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 8/8	ほぼ完形
24	SD01	土師器	皿	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	細・少	14.6	3.2	7.4		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 6/8	口縁の内外面に煤付着底部外面に麹圧痕一つ
25	SD01	黒色土器	椀	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少	(14.2)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
26	SD01	土師器	杯	灰白 10YR8/1	灰白 2.5Y8/1	細・多	(14.1)	(3.6)	(6.8)		回転ﾅﾃﾞ回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
27	SD01	土師器	杯	灰白 10YR8/2	灰白 2.5Y8/2	細・少	(14.3)		(8.8)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
28	SD01	土師器	杯	灰白 7.5YR8/1	灰白 7.5YR8/1	細・少	(16.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	摩滅がすすむ
29	SD01	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	細・少		(7.4)			回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 4/8	
30	SD01	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	中・少			7.6		回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 6/8	
31	SD01	土師器	杯	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	細・少			(4.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	

第２表　遺物観察表（土器）１

報文番号	報告遺構名	種　類	器　種	色　調		胎土	法　量				調　整		残存率	備　考
				外面	内面	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	外部	内部		
32	SD01	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/2	細・少	(16.0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	内面に濃淡の煤が付着
33	SD01	土師器	椀	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
34	SD01	土師器	椀	灰白 10YR8/2	灰白 5Y7/1	細・少			(7.0)		回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	貼り付け高台
35	SD01	土師器	椀	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	細・少			(5.9)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 3/8	貼り付け高台 摩滅がすすむ
36	SD01	土師器	椀	褐灰 10YR4/1	灰白 2.5Y8/1	細・少			(6.6)			ﾐｶﾞｷ	底部 2/8	摩滅がすすむ　外面が黒ずむ　貼り付け高台
37	SD01	土師器	椀	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	細・多			(5.0)		ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	貼り付け高台
38	SD01	土師器	椀	灰白 10YR8/2	灰白 2.5Y8/1	細・少			(6.2)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	見込みは粘土板でふさぐ貼り付け高台
39	SD01	土師器	高杯	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	中・少	(8.8)				回転ﾅﾃﾞ・接合後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
40	SD01	土師器	高杯	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	中・少	8.0				回転ﾅﾃﾞ・貼り付け後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 8/8	器台か？
41	SD01	土師器	鍋	褐灰 7.5YR4/1	褐灰 7.5YR5/1	細・少	(34.2)				横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ	口縁部破片	
42	SD01	土師器	鍋	灰白 2.5Y8/2	淡黄 2.5Y8/3	細・多					横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部破片	外面に黒斑
43	SD01	土師器	不明土製品	浅黄橙 10YR8/3		細・少					指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
44	SD01	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/1	黒褐 2.5Y3/1	細・少	(15.0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ・ﾐｶﾞｷ	口縁部破片	内黒　摩滅がすすむ
45	SD01	黒色土器	椀	灰白 10Y8/1	灰白 10Y8/1	細・少			(7.4)		ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	内黒　内面の黒色はほとんど剥げる　貼り付け高台
46	SD01	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/2	黒褐 2.5Y3/2	細・少			(5.6)			ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	内黒　貼り付け高台
47	SD01	黒色土器	椀	灰白 10YR8/2	褐灰 10YR4/1	細・少			(8.0)		回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	内黒　貼り付け高台 摩滅がすすむ
48	SD01	黒色土器	椀	にぶい黄橙 10YR6/3	褐灰 10YR4/1	細・少			(7.0)		ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	内黒　摩滅がすすむ
49	SD01	瓦器	椀	青灰 5PB5/1	暗青灰 5PB4/1	細・少	(15.9)				指押さえ後ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ・ﾐｶﾞｷ	口縁部 2/8	
50	SD01	瓦器	椀	青灰 5PB5/1	青灰 5PB5/1	細・少	(15.0)				指押さえ後ﾅﾃﾞ	暗文	口縁部 2/8	
51	SD01	瓦器	椀	灰 N4/	灰 N4/	細・少			(5.5)			ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	和泉型　貼り付け高台
55	SD02	白磁	椀	胎：灰白 N8/	釉：灰白 N8/	細・少			(6.4)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後施釉	底部 2/8	削り出し高台
57	SD03	須恵器	壺	灰 N5/	灰 N6/	細・少					ﾀﾀｷ	回転ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ・指押え	体部破片	
58	SD03	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少			(8.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	底部板状圧痕
59	SD03	土師器	椀	灰白 2.5YR8/2	灰白 2.5YR8/2	細・少			(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾊｹ	底部 2/8	貼り付け高台
60	SD03	土師器	高台付椀	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・多			7.6		貼り付け後ﾅﾃﾞ・回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後指押え	底部 8/8	
61	SD03	土師器	不明土製品	灰白 2.5Y8/1		細・少	9.2	3.8	3.7		ﾅﾃﾞ・指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
63	SD04	須恵器	杯	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少	(14.0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	西村産　口縁部外面に黒化
64	SD04	須恵器	杯	灰白 N8/	灰白 N8/	細・少	(12.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
65	SD04	須恵器	椀	灰白 N7/	灰白 N8/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
66	SD04	須恵器	椀	灰白 N7/	灰白 N7/	細・少	(13.8)				回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	西村産
67	SD04	須恵器	椀	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少			(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	ﾊｹ	底部 8/8	貼り付け高台
67	SD04	須恵器	椀	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少			(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	ﾊｹ	底部 8/8	貼り付け高台

第３表　遺物観察表（土器）２

報文番号	報告遺構名	種　類	器　種	色　調		胎土	法　量				調　整		残存率	備　考
				外面	内面	砂粒	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	その他（cm）	外部	内部		
68	SD04	須恵器	壺	灰白 N7/	灰 N6/	中・少			(15.8)		格子目ﾀﾀｷ・板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ後板ﾅﾃﾞ	底部 2/8	十瓶産
69	SD04	土師器	小皿	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	細・少	7.2	1.1	(5.6)		回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
70	SD04	土師器	椀	橙 5YR6/6	橙 2.5YR6/6	細・少			(6.8)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	摩滅がすすむ　貼り付け高台
71	SD04	土師器	椀	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少					回転ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	貼り付け高台
72	SD04	土師器	不明土製品	灰白 5Y8/1		細・多					指押え		破片	用途不明
73	SD04	土製品	不明土製品		赤褐 10R5/4	粗・多	5.2	3.9	3.4		生きている面（何らかの圧痕か？）		破片	強い被熱で胎土が融けて一部は発砲・白化・自然釉化
75	SD05	須恵器	甕	灰白 10Y7/1	灰白 10Y8/1	中・少					平行ﾀﾀｷ	青海波文後ﾅﾃﾞ	破片	
76	SD05	土師器	小皿	灰白 10Y8/2	灰白 10Y8/2	細・少	(9.4)	1.6	(6.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	摩滅がすすむ
77	SD05	土師器	杯	灰白 2.5YR8/1	灰白 10YR8/2	細・少	(14.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	摩滅がすすむ
78	SD05	土師器	土鍋	灰黄 2.5Y7/2	浅黄 2.5Y7/3	中・多					凹線 1 条・ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
79	SD05	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/1	灰白 N4/	細・少			6.4		ﾐｶﾞｷ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 8/8	内黒　摩滅がすすむ　貼り付け高台
80	SD05	黒色土器	椀	灰白 10YR8/2	黄灰 2.5Y4/1	中・少			(7.7)		回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ・回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 2/8	内黒　摩滅がすすむ　貼り付け高台
81	SD07	須恵器	皿	灰 N6/	灰 N6/	中・少	(13.8)	1.8	(8.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	内外面に火襷痕
82	SD07	須恵器	皿	灰白 N5/	灰白 N5/	細・少			(17.2)		回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	貼り付け高台
83	SD07	須恵器	杯	灰白 N7/	灰白 N7/	細・少					回転ﾅﾃﾞ・工具痕が残る	回転ﾅﾃﾞ	底部破片	底部外面に工具痕が残る　貼り付け高台
84	SD07	須恵器	蓋	灰白 5Y8/1	灰白 5Y7/1	細・少				摘み 2.2	ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	破片	外面に自然釉がゴマ状に付着
85	SD07	須恵器	蓋	灰 N5/	灰 N5/	細・少				摘み 2.0	ﾅﾃﾞ		破片	
86	SD07	須恵器	蓋	灰 N5/	褐灰 10YR6/1	細・少				摘み 1.8	貼り付け後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	つまみ部 4/8	外面に斑状の自然釉付着
87	SD07	須恵器	蓋	灰 N7/	灰 N7/	細・少				摘み 2.0	つまみ貼り付け後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	つまみ部 8/8	外面にゴマ状の自然釉付着
88	SD07	須恵器	蓋	灰 N6/	灰 N6/	細・少	(17.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	外面にゴマ状の自然釉が付着
89	SD07	須恵器	蓋	灰 N5/	灰 N5/	中・少	(16.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	外面端部にゴマ状の自然釉付着→重ね焼きの痕跡
90	SD07	須恵器	蓋	灰白 5Y7/1	灰 N6/1	細・少	(16.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	外面にゴマ状の自然釉が付着
91	SD07	須恵器	杯身	灰 N6/	灰 N6/	細・少	(15.8)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	内外面に火襷痕
92	SD07	須恵器	杯身	灰 N7/	灰 N7/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ・凹線 1 条	底部破片	
93	SD07	須恵器	杯	灰白 N6/	灰白 N6/	細・少			(6.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
94	SD07	須恵器	杯	灰白 N7/	灰白 N7/	細・少			(12.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	底部破片	貼り付け高台
95	SD07	須恵器	椀	灰白 N8/	灰白 N8/	細・少	(13.8)				回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	口縁部 1/8	西村産
96	SD07	須恵器	椀	灰 N6/	灰白 N7/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	外面に火襷痕あり
97	SD07	須恵器	椀	灰白 N8/	灰 N5/	細・少			(6.6)		ﾐｶﾞｷ・ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	内面の一部が黒化 底部外面にヘラ記号 貼り付け高台

第４表　遺物観察表（土器）３

報文番号	報告遺構名	種　類	器　種	色　調		胎土	法　量				調　整		残存率	備　考
				外面	内面	砂粒	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	その他(cm)	外部	内部		
98	SD07	須恵器	椀	褐灰 10YR6/1	灰 5Y4/1	細・少			(7.2)		回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	摩滅気味　貼り付け高台
99	SD07	須恵器	椀	灰 N6/	灰 N6/	細・多			(11.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	削り出し高台
100	SD07	須恵器	椀	褐灰 10YR6/1	灰白 10YR7/1	細・少			(6.2)		回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	貼り付け高台
101	SD07	須恵器	脚台	灰 N6/	灰 N6/	細・少			(10.2)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
102	SD07	須恵器	壺	灰 N/4	灰 N5/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	体部 2/8	外面にゴマ状の自然釉が付着
103	SD07	須恵器	壺	灰白 N8/	灰白 2.5Y8/1	細・少			8.7		ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 6/8	
104	SD07	須恵器	壺	灰 N5/	灰 N5/	中・少			(10.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	内面の一部に自然釉が付着
105	SD07	須恵器	壺	灰 N4/	灰 N5/	細・少			(14.6)		格子目ﾀﾀｷ・板ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
106	SD07	須恵器	甕	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少					平行ﾀﾀｷ	青海波文？後ﾅﾃﾞ	破片	
107	SD07	須恵器	甕	褐灰 7.5YR4/1	灰白 N7/	細・少	(35.6)				回転ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ	回転ﾅﾃﾞ・当て具痕をﾅﾃﾞ消し	頸部 2/8	口縁部 1/8 残　肩部にゴマ状の自然釉
108	SD07	須恵器	こね鉢	灰 N5/	灰 N5/	中・少	(30.3)				横ﾅﾃﾞ・ﾀﾀｷ後ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ後ﾅﾃﾞ	口縁部破片	混入の可能性あり
109	SD07	須恵器	こね鉢	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少	(26.2)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	摩滅がすすむ
110	SD07	須恵器	こね鉢	灰白 N7/	灰白 N7/	中・少			(13.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
111	SD07	須恵器	鉢	灰白 N7/	灰白 N7/	中・少			11.4		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 3/8	
112	SD07	緑釉陶器	杯	胎：灰白 5Y7/1	釉：にぶい黄橙 10YR7/3	細・少					回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	口縁部破片	
113	SD07	緑釉陶器	椀	釉：オリーブ灰 5GY6/1	胎：オリーブ灰 2.5GY5/1	細・少					回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	口縁部破片	京都産　小さな耳状のくぼみあり
114	SD07	緑釉陶器	椀	釉：灰白 10Y7/1	胎：灰 N6/	細・少			(6.4)		回転ﾅﾃﾞ	施釉	底部 2/8	削り出し高台
115	SD07	緑釉陶器	椀	釉：灰白 5Y8/2	胎：灰白 5Y8/2	細・少			6.1		ﾅﾃﾞ後施釉	ﾅﾃﾞ後施釉	底部 8/8	京都洛北産　削り出し高台
116	SD07	白磁	椀	釉：灰白 5Y8/1	胎：灰白 5Y8/1	無	(13.8)				回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	口縁部破片	白磁Ⅰ類　削り出し高台
117	SD07	土師器	小皿	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少	(8.4)	1.2	(6.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 3/8	外面の一部に煤付着
118	SD07	土師器	小皿	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少	(8.4)	1.6			回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
119	SD07	土師器	脚付小皿	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少	(8.6)	1.9	(5.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	歪あり
120	SD07	土師器	小皿	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/1	細・少	(8.8)	1.4			回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 3/8	
121	SD07	土師器	杯	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少	9.3	1.7	6.7		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ・見込みに仕上げﾅﾃﾞ	口縁部 6/8	
122	SD07	土師器	小皿	淡橙 5YR8/4	灰白 5YR8/2	中・少	(9.4)	17.7	(6.2)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
123	SD07	土師器	小皿	橙 5YR7/6	橙 5YR7/6	細・少	(9.8)	1.6	(4.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	摩滅がすすむ
124	SD07	土師器	小皿	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	細・多	9.8	1.7	7.6		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
125	SD07	土師器	杯	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 7.5YR8/4	細・少	(10.4)	2.5	(5.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	混入品
126	SD07	土師器	杯	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	中・少	(13.8)	3.5	(7.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	摩滅がすすむ
127	SD07	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	(14.4)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 8/1	摩滅気味
128	SD07	土師器	杯	灰白 5YR8/1	灰白 5YR8/1	細・少	(15.0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	

第５表　遺物観察表（土器）４

報文番号	報告遺構名	種類	器種	色調 外面	色調 内面	胎土 砂粒	法量 口径(cm)	法量 器高(cm)	法量 底径(cm)	法量 その他(cm)	調整 外部	調整 内部	残存率	備考
129	SD07	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	(15.8)	3.4	(8.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
130	SD07	土師器	杯	灰白 10YR7/1	褐灰 10YR6/1	細・多	(15.8)				回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	外面の一部に煤付着
131	SD07	土師器	杯	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
132	SD07	土師器	杯	浅黄橙 7.5YR8/4	灰白 7.5YR8/2	細・少			(5.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 3/8	摩滅がすすむ
133	SD07	土師器	杯	灰白 2.5Y8/2	灰黄 2.5Y7/2	細・少			(6.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	摩滅がすすむ
134	SD07	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	細・少			(7.0)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	
135	SD07	土師器	杯	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/4	細・少			7.8		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後回転ﾅﾃﾞ	底部 8/8	
136	SD07	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	中・少			(6.2)		回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	鉄分と砂の沈着あり円盤状高台状
137	SD07	土師器	杯	浅黄橙 7.5YR8/3	黒 7.5YR2/1	中・少			(6.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ後ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
138	SD07	土師器	杯	橙 5YR6/8	橙 5YR6/8	中・少			(8.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	摩滅がすすむ
139	SD07	土師器	杯	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	中・少			(6.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	内面に漆状の皮膜が付着
140	SD07	土師器	高台付杯	にぶい橙 7.5YR7/4	橙 2.5YR6/6	中・少			(5.4)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	
141	SD07	土師器	椀	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少			(6.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	貼り付け高台
142	SD07	土師器	竈	灰黄褐 10YR6/2	褐灰 10YR4/1	中・少	13.5	4.9	2.9		ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	つば部破片	内面に炭化物が付着
143	SD07	土師質土器	羽釜	黄灰 2.5Y4/1	灰黄 2.5Y7/2	細・多	(28.5)				横ﾅﾃﾞ・貼り付け突帯後ﾅﾃﾞ・ﾊｹ	横ﾅﾃﾞ・板ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
144	SD07	土師質土器	羽釜	灰白 10YR8/2	灰白 2.5YR7/1	中・少	(24.4)				横ﾅﾃﾞ・炭化物付着	板ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	胴部外面に煤付着
145	SD07	土師質土器	羽釜	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい橙 7.5YR6/4	中・多					横ﾅﾃﾞ・貼り付け突帯後ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
146	SD07	土師質土器	羽釜	にぶい橙 7.5YR7/3	にぶい橙 7.5YR7/3	中・多					横ﾅﾃﾞ	横ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
147	SD07	土師質土器	羽釜	にぶい橙 5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/2	中・少					ﾅﾃﾞ	板ﾅﾃﾞ	破片	
148	SD07	土師質土器	土鍋	灰褐 7.5YR4/2	浅黄橙 10YR8/4	中・多	(34.0)				横ﾅﾃﾞ・指押え後ﾊｹ後横ﾅﾃﾞ	指押さえ後板ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	外面の一部に煤付着
149	SD07	土師器	土鍋	灰黄 2.5Y7/2	灰黄 2.5Y7/2	中・多					横ﾅﾃﾞﾊｹ後ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ・ﾊｹ	横ﾅﾃﾞ・ﾊｹ・ﾅﾃﾞ	破片	
150	SD07	黒色土器	椀	黒褐 5YR3/1	黒褐 5YR3/1	細・少	(14.2)				ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	口縁部破片	両黒　摩滅
151	SD07	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/1	黒褐 10YR3/1	細・少	(15.4)	5.6	(6.6)		ﾐｶﾞｷ	ﾐｶﾞｷ	口縁部 3/8	内黒　貼り付け高台
152	SD07	黒色土器	椀	浅黄橙 10YR8/3	灰 5Y4/1	細・少	(16.1)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	口縁部 1/8	内黒　摩滅がすすむ
153	SD07	黒色土器	椀	灰白 10YR8/1	暗灰 N 3/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	口縁部破片	内黒
154	SD07	黒色土器	椀	橙 5YR6/6	褐灰 10YR4/1	細・少			(6.4)				底部 1/8	内黒　摩滅がすすむ貼り付け高台
155	SD07	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/2	暗灰 N3/	中・少					回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	破片	内黒　高台が剥離
156	SD07	黒色土器	椀	灰白 10YR8/2	暗灰 N3/	細・少					ﾅﾃﾞ・回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部破片	内黒　貼り付け高台
157	SD07	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/1	オリーブ黒 5Y3/1	中・少			(6.2)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	内黒　貼り付け高台
158	SD07	黒色土器	椀	灰白 10YR8/2	褐灰 10YR5/1	細・少			(5.1)		回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	内黒 貼り付け高台

第６表　遺物観察表（土器）５

報文番号	報告遺構名	種類	器種	色調 外面	色調 内面	胎土 砂粒	法量 口径(cm)	法量 器高(cm)	法量 底径(cm)	法量 その他(cm)	調整 外部	調整 内部	残存率	備考
159	SD07	黒色土器	椀	にぶい橙 7.5YR7/4	暗灰 N3/	中・少			(6.0)		回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 2/8	内黒　貼り付け高台
160	SD07	黒色土器	椀	明褐灰 7.5YR7/1	黒褐 10YR3/1	細・少			5.9		回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	ﾐｶﾞｷ	底部 6/8	内黒　摩滅がすすむ 貼り付け高台
180	SD08	須恵器	蓋	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	(12.6)				回転ﾍﾗ切り・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
181	SD08	須恵器	皿	灰 N6/	灰 N6/	細・少					回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	内外面に火襷痕あり
182	SD08	土師器	杯	灰褐 7.5YR6/2	灰褐 7.5YR6/2	細・少	(12.2)		(9.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
183	SD08	土師器	杯	にぶい橙 5YR6/3	にぶい橙 5YR6/4	細・少	(12.4)				回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	
184	SD08	土師器	皿	橙 5YR7/6	浅黄橙 10YR8/3	細・少	10.2	2.7	5.9		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 3/8	
185	SD08	土師器	椀	灰白 7.5YR8/2	浅黄橙 10YR8/3	中・少					ﾅﾃﾞ・回転ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部 2/8	貼り付け高台
187	包含層	磁器	椀	釉：灰白 5GY8/1	胎：灰白 5Y8/1	無			(4.0)		回転ﾅﾃﾞ後染付け後施釉	回転ﾅﾃﾞ後染付け後施釉	底部 2/8	削り出し高台
188	包含層	土師器	不明土製品	灰白 2.5Y8/1		細・少	4.7	3.8	3.2		指押え・指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
189	包含層	土師器	椀	にぶい黄橙 10YR7/2	灰黄褐 10YR5/2	中・少			(6.2)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ・穿孔 1 ヶ所	底部 3/8	焼成後の穿孔 1 個あり　貼り付け高台
190	包含層	土師器	椀	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少			5.5		ﾐｶﾞｷ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部 4/8	貼り付け高台
192	包含層	須恵器	椀	灰白 N7/	灰白 N7/	細・少			5.0		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾊｹ	底部 2/8	西村産　内面に火襷痕　貼り付け高台
193	包含層	土師器	小皿	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	細・少	6.0	0.7	(5.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	体部 8/8	
194	包含層	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/1	細・少	(8.4)	1.3	(6.9)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
195	包含層	土師器	小皿	にぶい橙 7.5YR7/3	褐灰 10YR5/1	細・少	(9.0)	1.2	(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 3/8	
196	包含層	土師器	杯	灰白 7.5YR8/1	灰白 7.5YR8/2	細・少	(13.2)	3.9	(7.4)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 3/8	摩滅気味
197	包含層	土師器	杯	灰白 5Y8/1	灰白 5Y8/1	細・少			7.4				底部 2/8	摩滅が著しい
198	包含層	土師器	杯	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少			7.4		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ・見込みに仕上げﾅﾃﾞ	底部 5/8	
199	包含層	土師器	脚台	にぶい橙 5YR7/4	にぶい橙 5YR7/4	細・少			(5.9)		回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 4/8	小型高杯の脚か　接合面で剥離
200	包含層	土師器	飯蛸壺	浅黄橙 7.5YR8/3	灰白 10YR8/2	細・少					指押え		破片	
201	包含層	土師器	不明土製品	灰白 2.5Y8/1		中・多	8.0	6.8	4.5		指押え・指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
202	包含層	土師器	不明土製品	灰白 2.5Y8/1		中・少					指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
203	包含層	土師器	不明土製品	灰白 2.5Y8/2		中・少	9.3	6.3	3.6		指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
207	包含層	須恵器	杯	灰白 N7/	灰白 N7/	細・少	(17・0)				回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 1/8	口縁内外面が部分的に黒化　西村産
209	包含層	須恵器	杯	灰 N6/	灰 N6/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
210	包含層	須恵器	椀	灰白 N8/	灰白 N8/	細・少			(4.8)		回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	ﾐｶﾞｷ	底部の 5/8	西村産　貼り付け高台
211	包含層	須恵器	高杯	灰白 N8/	灰白 N8/	中・少				脚 4.0	回転ﾅﾃﾞ後絞り	回転ﾅﾃﾞ後線刻・回転ﾅﾃﾞ	脚部 8/8	内面見込みにヘラ刻書「夫」

第７表　遺物観察表（土器）６

報文番号	報告遺構名	種類	器種	色調 外面	色調 内面	胎土 砂粒	法量 口径(cm)	法量 器高(cm)	法量 底径(cm)	法量 その他(cm)	調整 外部	調整 内部	残存率	備考
212	包含層	須恵器	甕	灰 N5/	灰 N5/	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	内面に自然釉がゴマ状に付着、凹線文・刺突文・沈線２条
213	包含層	須恵器	壺	灰白 N7/	灰白 N7/	中・多			(17.0)		回転ﾅﾃﾞ後平行ﾀﾀｷ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	青海波文	底部 1/8	内面にゴマ状の自然釉が付着
214	包含層	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/2	細・少	(7.8)	1.1	(8.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 4/8	
215	包含層	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	8.2	1.4	5.8		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 6/8	
216	包含層	土師器	杯	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	細・少	(13.0)	(3.5)	(6.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
217	包含層	土師器	杯	灰白 10YR8/2	灰白 10YR8/2	中・少			6.2		回転ﾅﾃﾞ後回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ後底部ﾅﾃﾞ	底部 8/8	
218	包含層	土師器	小皿	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少			5.7		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 8/8	円盤状高台
219	包含層	白磁	鉢	釉：灰白 5Y7/2	胎：灰白 5Y8/1	細・少					回転ﾅﾃﾞ後施釉・貫入	回転ﾅﾃﾞ後施釉・貫入	口縁部破片	白磁Ⅳ類
220	包含層	白磁	皿	釉：灰白 2.5Y8/1	胎：灰白 N8/	無			(5.4)		回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	底部 1/8	全面施釉　内面見込みに亀裂
222	包含層	須恵器	杯	灰白 N8/	灰白 N8/	無			(7.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	内外面に火襷痕あり
223	包含層	須恵器	椀	灰白 7.5Y6/1	灰 N6/	細・多			(8.0)		ﾅﾃﾞ	ﾅﾃﾞ	底部 1/8	
224	包含層	須恵器	皿	灰 N6/	灰 N6/	細・少	(25.8)		(22.8)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	内外面に火襷痕
225	包含層	須恵器	蓋	灰 N5/	灰 N5/	細・少	(15.8)				回転ﾍﾗｹｽﾞﾘ・回転ﾍﾗ切り後仕上げﾅﾃﾞ	回転ﾍﾗ切り後仕上げﾅﾃﾞ	口縁部破片	焼け歪みがある　外面に粉状の自然釉
226	包含層	須恵器	鉢	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	細・少					回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	口縁部破片	
227	包含層	土師器	小皿	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	細・少	(8.8)	1.3	(6.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	口縁部 2/8	
228	包含層	土師器	杯	にぶい橙 7.5YR7/4	灰白 10YR8/2	中・少			(7.3)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後板状圧痕	回転ﾅﾃﾞ	底部 3/8	摩滅がすすむ
229	包含層	土師器	杯	浅黄橙 10YR8/3	にぶい黄橙 10YR7/2	細・少			(6.5)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	摩滅気味　円盤状高台状
230	包含層	黒色土器	椀	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	中・少			(5.2)		回転ﾅﾃﾞ・ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 1/8	摩滅がすすむ　貼り付け高台
231	包含層	黒色土器	椀	黒褐 2.5Y3/1	黒褐 2.5Y3/1	細・少			(5.6)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ後ﾐｶﾞｷ	底部 6/8	両黒　摩滅がすすむ　貼り付け高台
232	包含層	緑釉陶器	椀	釉：オリーブ灰 10Y5/1	胎：青灰 5PB6/1	細・少	(16.8)				回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	口縁部破片	須恵質
233	包含層	須恵器	壺	灰白 N7/	灰白 N7/	中・少			(14.8)		ﾀﾀｷ後回転ﾍﾗ切り	回転ﾅﾃﾞ	底部 1/8	十瓶産
234	包含層	土師器	杯	浅黄橙 10YR8/3	浅黄橙 10YR8/3	細・少			(8.0)		回転ﾅﾃﾞ・回転ﾍﾗ切り後回転ﾅﾃﾞ	回転ﾅﾃﾞ	底部 2/8	内面全体に漆状の皮膜が付着
235	包含層	土師器	不明土製品	浅黄橙 10YR8/3		細・少	8.6	3.5	3.4		指押え後ﾅﾃﾞ		破片	用途不明
236	包含層	白磁	鉢	釉：灰白 5Y7/2	胎：灰白 7.5Y7/1	細・少	(14.8)				回転ﾅﾃﾞ後施釉・貫入	回転ﾅﾃﾞ後施釉・貫入	口縁部破片	白磁Ⅳ類
237	包含層	白磁	椀	釉：灰白 5Y8/2	胎：灰白 N8/	細・少	(14.8)				回転ﾅﾃﾞ・回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉・櫛描文	口縁部 1/8	白磁Ⅴ類　削り出し高台　内面に櫛描文様の一部あり
238	包含層	青磁	椀	釉：灰オリーブ 5Y6/2	胎：灰白 5Y7/1	細・少			(5.8)		回転ﾅﾃﾞ後施釉	回転ﾅﾃﾞ後施釉	底部 2/8	龍泉産　削り出し高台　高台内燃にも一部施釉あり

第８表　遺物観察表（土器）７

報文番号	報告遺構名	器　種	全長（cm）（残存長）	狭端幅（cm）（残存幅）	広端幅（cm）（残存幅）	胎　土	色　調 凸面	色　調 凹面	整形・調整 凸面	整形・調整 凹面	備　考
52	SD01	平瓦	8.6	13.0	1.6	中・少	灰白 10Y8/1	灰白 10Y8/1	布目圧痕・ヘラ切り	ナデ後タタキ	煤付着（凹面）
53	SD01	平瓦	9.0	5.4	2.2	細・少	灰 N4/	灰 N4/	布目圧痕・ヘラケズリ	縄目タタキ	
54	SD01	平瓦	6.3	6.2	2.2	細・少	暗灰 N3/	暗灰 N3/	布目圧痕・ヘラ切り		摩滅が著しい　瓦質
56	SD02	平瓦	9.0	7.0	1.7	細・少	灰白 N8/	灰白 N8/	布目圧痕・ヘラ切り	タタキ	摩滅がすすむ　須恵質
62	SD03	丸瓦	9.0	4.8	1.2	細・少	褐灰 10YR4/1	褐灰 10YR4/1	ヘラケズリ	布目圧痕	須恵質
74	SD04	平瓦	12.2	9.1	2.2	細・少	灰白 N7/	灰白 N8/	布目圧痕	縄目タタキ	
161	SD07	平瓦	8.0	7.3	1.8	中・少	灰白 2.5Y8/1	灰白 2.5Y8/1	布目圧痕	板ナデ	須恵質
162	SD07	平瓦	7.5	4.2	1.3	細・少	灰白 N7/	灰白 N7/	布目圧痕・ヘラ切り	板ナデ	須恵質
163	SD07	平瓦	8.5	7.2	1.7	粗・多	灰白 N7/	灰白 N7/	布目圧痕	縄目タタキ	摩滅がすすむ
164	SD07	平瓦	11.3	10.5	3.1	細・少	灰 N4/	灰 N6/	布目圧痕	縄目タタキ	
165	SD07	平瓦	9.1	8.3	2.3	細・少	灰白 N4/	灰 N5/	布目圧痕	縄目タタキ	
166	SD07	平瓦	6.9	5.3	2.4	中・少	浅黄橙 10YR8/3	灰白 10YR8/2	布目圧痕	縄目タタキ	軟質
167	SD07	平瓦	4.3	4.2	1.8	細・少	灰白 N8/	灰 N6/	布目圧痕	縄目タタキ	
168	SD07	平瓦	4.5	5.6	1.8	中・多	灰白 10YR8/1	灰白 10YR8/2	布目圧痕	縄目タタキ	やや軟質
169	SD07	平瓦	6.3	6.8	2.0	粗・多	灰 N5/	灰白 N8/	布目圧痕	縄目タタキ	須恵質
170	SD07	平瓦	5.8	5.7	1.6	中・多	灰 N7/	灰白 N8/	布目圧痕・ヘラ切り	縄目タタキ	
171	SD07	平瓦	7.1	5.0	2.5	細・少	にぶい橙 7.5YR6/4	にぶい黄橙 10YR7/3	布目圧痕	格子目タタキ	土師質
172	SD07	平瓦	5.0	4.5	1.8	中・少	灰白 2.5Y7/1	黄灰 2.5Y6/1	布目圧痕	タタキ	一部炭化物付着
173	SD07	平瓦	4.7	4.2	2.3	中・少	灰白 7.5YR8/2	灰白 7.5YR8/1	ナデ	タタキ	凹面の摩滅が著しい
174	SD07	平瓦	5.6	4.1	1.8	中・少	暗灰 N3/	灰 N4/	布目圧痕	格子目タタキ	
175	SD07	平瓦	17.4	10.6	2.4	中・少	灰 N5/	灰 N6/	布目圧痕	タタキ	須恵質
176	SD07	平瓦	10.6	12.9	1.8	中・少	灰白 5Y7/1	灰黄 2.5Y7/2	布目圧痕	タタキ	
177	SD07	丸瓦	6.7	7.7	2.4	細・少	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	板ナデ・ヘラ切り	布目圧痕	須恵質
178	SD07	丸瓦	4.5	5.4	1.9	細・少	褐灰 10YR 5/1	灰 5Y5/1	板ナデ	布目圧痕	須恵質
186	SD08	平瓦	6.1	2.3	2.1	細・少	灰 N5/	灰白 5Y7/1	布目圧痕	縄目タタキ	摩滅がすすむ
191	包含層	平瓦	5.1	4.7	2.7	中・多	灰白 10YR7/1	灰白 10YR7/1	板ナデ・布目圧痕・ヘラ切り	板ナデ後タタキ	須恵質
204	包含層	平瓦	6.0	5.0	2.2	細・少	浅黄橙 10YR8/4	灰白 5Y7/1	布目圧痕・ヘラ切り	縄目タタキ	摩滅がすすむ　須恵質
205	包含層	平瓦	6.4	5.0	2.7	細・少	暗灰 N3/	灰 N4/	布目圧痕	縄目タタキ	須恵質
206	包含層	平瓦	7.1	6.5	2.0	細・少	灰白 2.5Y8/2	灰白 2.5Y8/1	布目圧痕・ヘラ切り	縄目タタキ	摩滅がすすむ
208	包含層	平瓦	9.7	4.0	2.4	中・少	淡黄 2.5Y8/3	灰白 2.5Y8/2	布目圧痕	縄目タタキ	軟質
221	包含層	平瓦	11.5	12.9	1.8	中・多	灰白 N7/	灰 N6/	布目圧痕	タタキ後板ナデ	凹面に模骨痕が残る
239	包含層	平瓦	5.8	9.4	1.9	中・多	灰白 N6/	灰白 N6/	布目圧痕後ナデ	棒状圧痕	須恵質
240	包含層	平瓦	7.6	7.0	1.5	細・少	灰白 N8/	灰白 N8/	布目圧痕	板ナデ後タタキ	須恵質
241	包含層	平瓦	11.5	9.4	2.1	中・少	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	布目圧痕	板ナデ後タタキ	凹面に模骨痕が残る　須恵質
242	包含層	丸瓦	9.4	7.3	1.9	細・少	灰白 N8/	灰白 N8/	板ナデ・ヘラ切り	布目圧痕	凸面の摩滅がすすむ　須恵質

第９表　遺物観察表（瓦）

報文番号	報告遺構名	器　種	法　量 長さ（mm）	法　量 幅（mm）	法　量 厚さ（mm）	法　量 重さ（g）	備　考
179	SD07	砥石	6.7	1.9	1.2	17.03	２面を砥面に使用、手持ち砥石

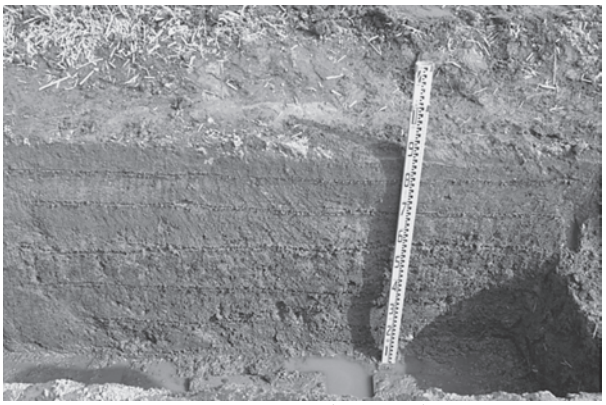
第 10 表　遺物観察表（石器）

図版 1

調査地遠景（南東から）

調査区完掘状況（北から）

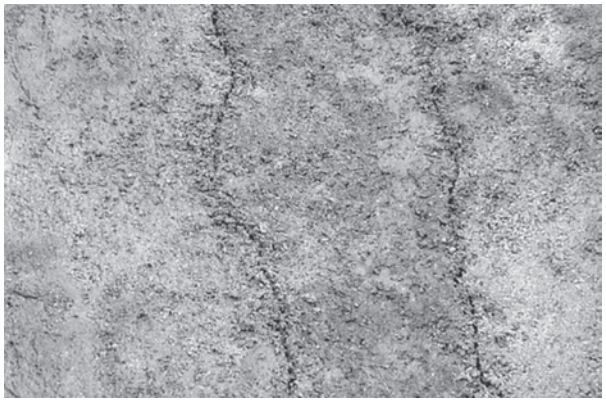
図版２



基本土層序（西から）

SD01 土層断面（北東から）

SD01 遺物出土状況（南西から）



SD05 検出状況（南から）

石列状遺構完掘状況（南から）

石列状遺構完掘状況（北から）

石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南西から）

図版４

石列状遺構の北礫敷き部分（北から）

石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南から）

図版５

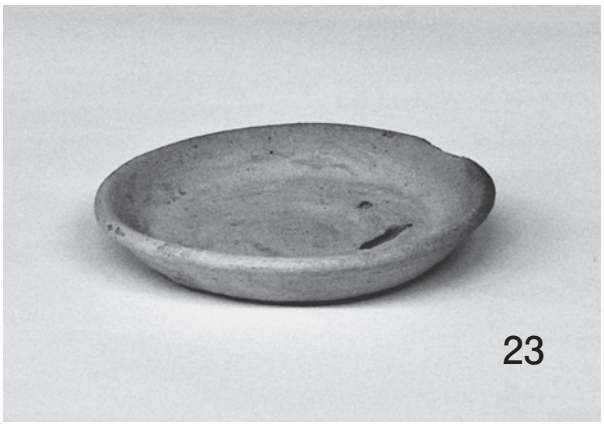
石列状遺構の石列と南礫敷き部分（南から）

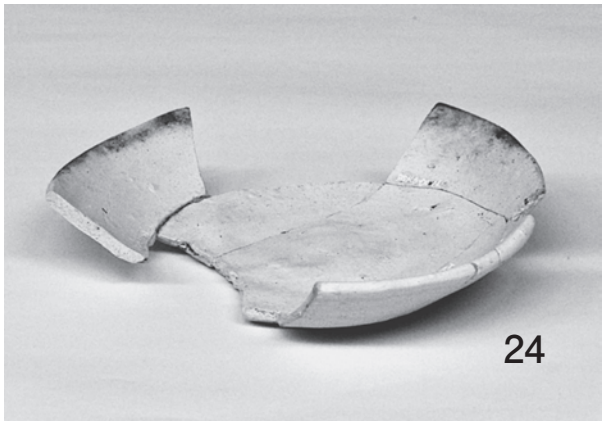
石列状遺構（南東から）

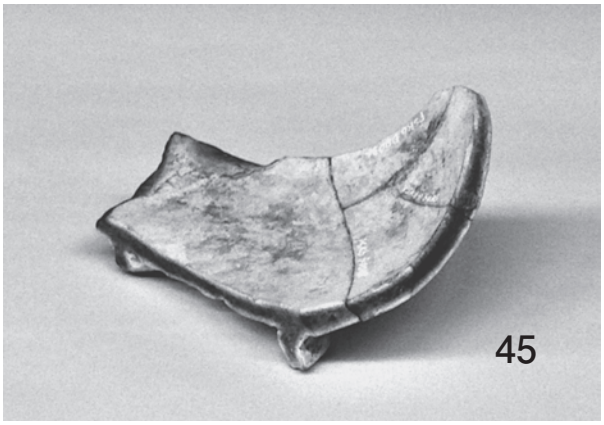
SD07 西肩部（北西から）

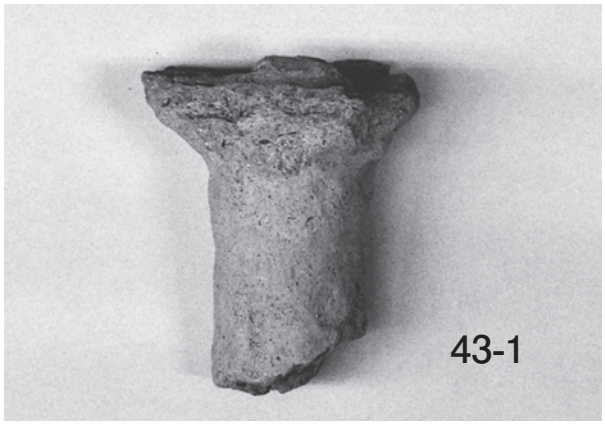
SD08 土層断面（北から）

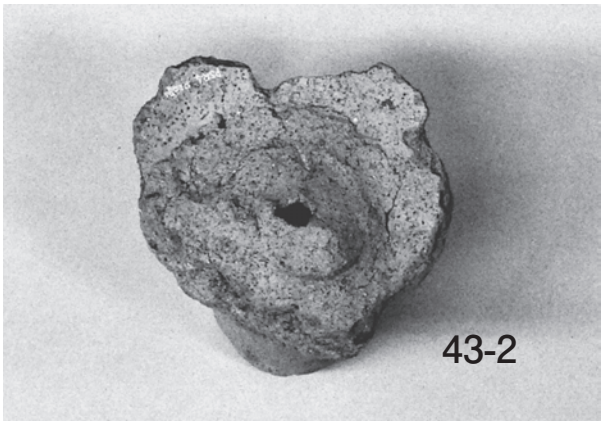
図版６



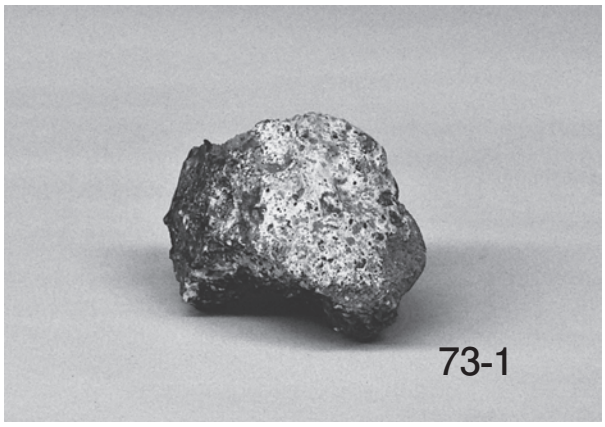


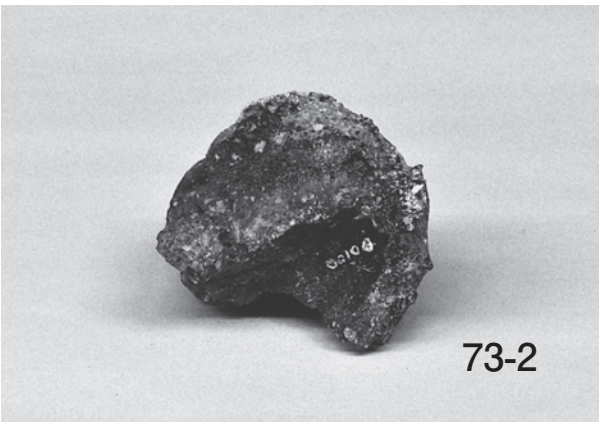


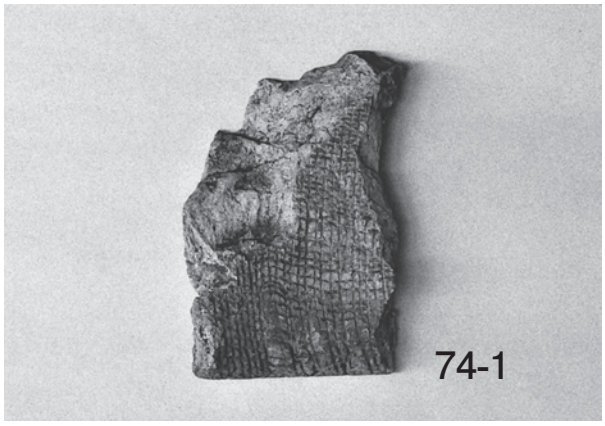


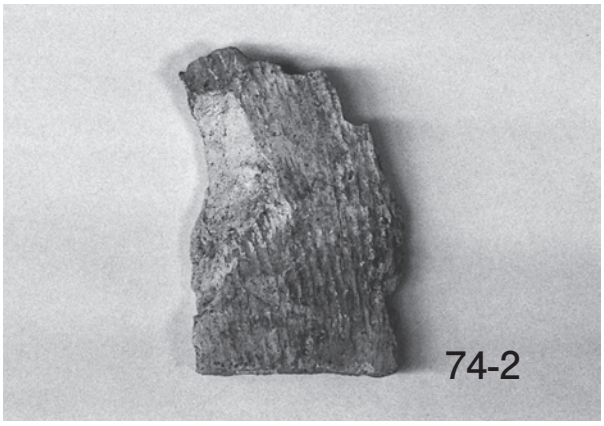


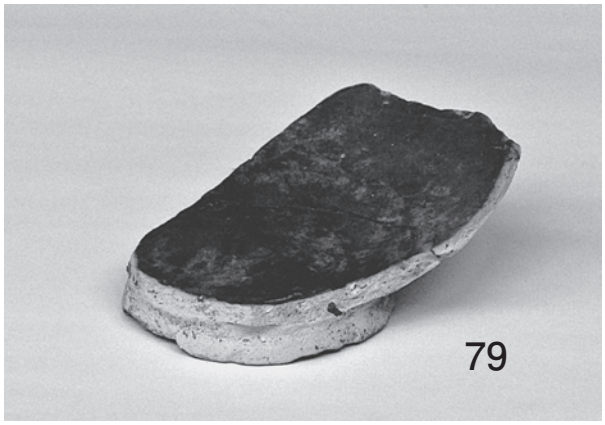
出土遺物１

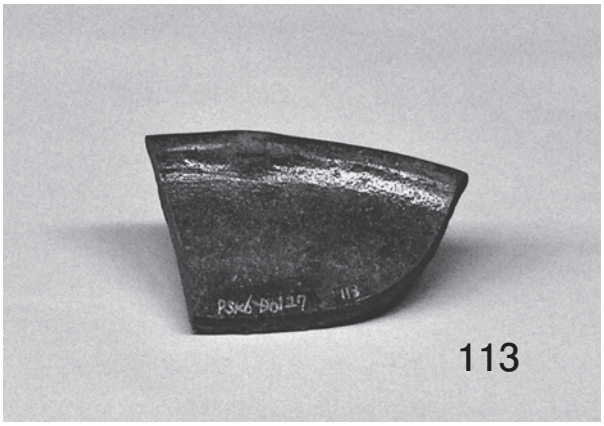


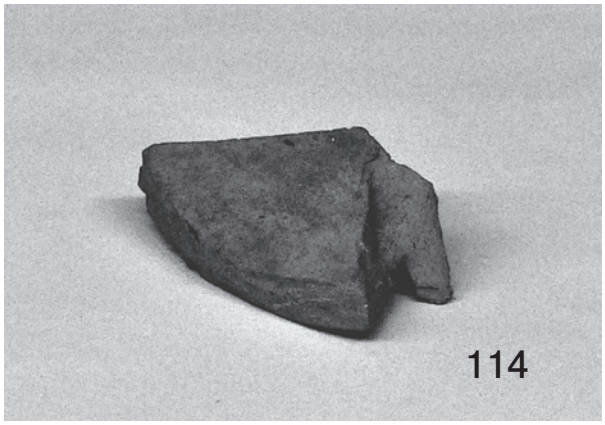


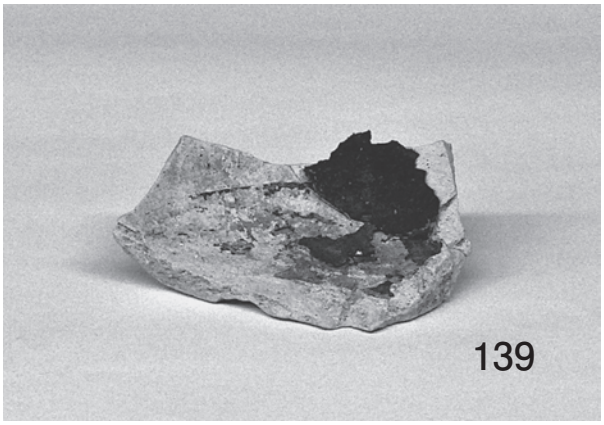






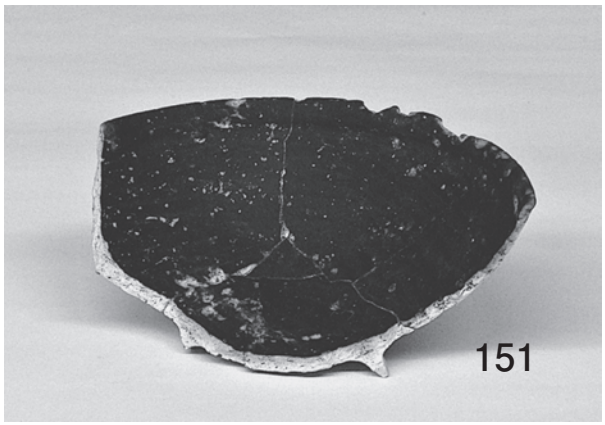


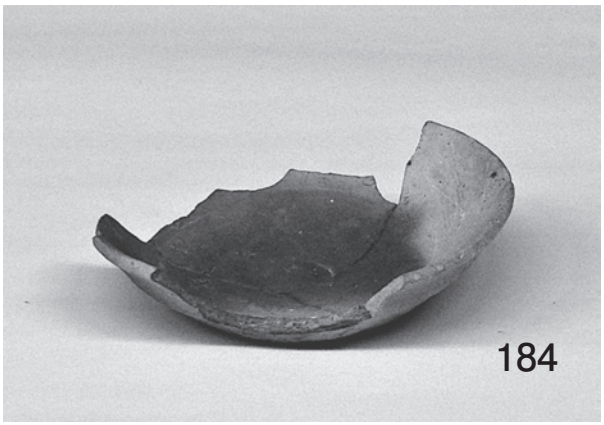


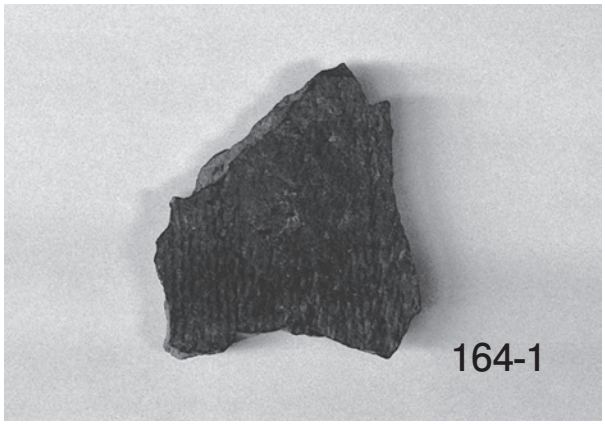


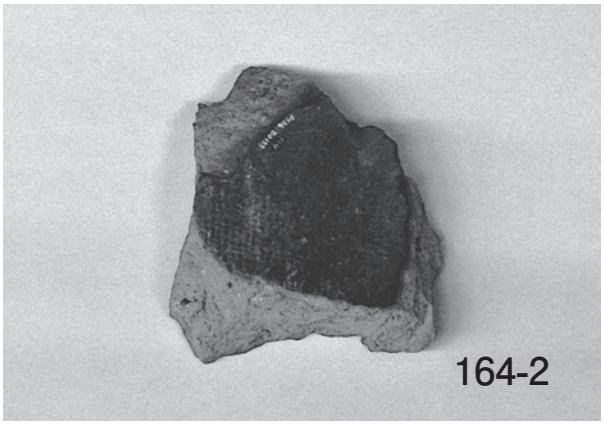
出土遺物２

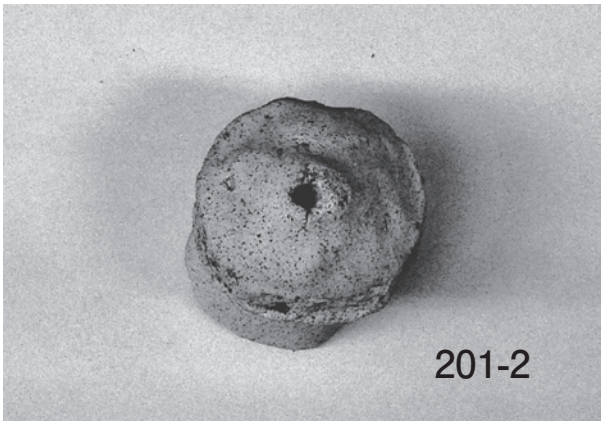
図版８

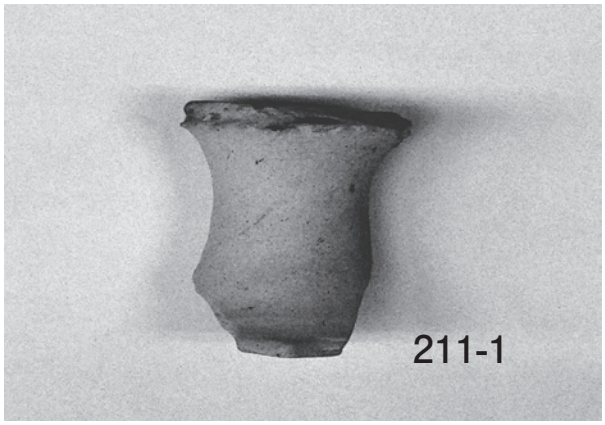


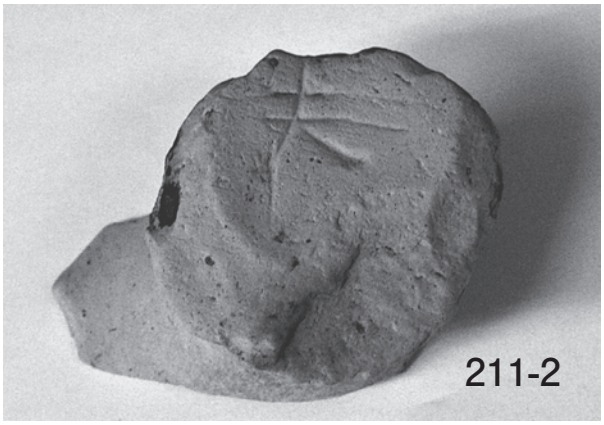












出土遺物３

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいせい22ねんど　かがわけんないいせきはっくつちょうさ　さぬきこくふあと はっくつちょうさがいほう
書名	平成22年度　香川県内遺跡発掘調査　讃岐国府跡発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	宮﨑哲治
編集機関	香川県埋蔵文化財センター
所在地	〒762-0024　香川県坂出市府中町字南谷5001-4　　TEL.0877-48-2191　Fax.0877-48-3249
発行機関	香川県教育委員会
発行年月日	2011（平成23）年　9月　15日

総頁数	目次等	本文	掲載資料一覧表	図版	挿図枚数	写真枚数	付図枚数	CD-ROM枚数
46 P	8 P	21 P	9 P	8 P	17枚	39枚	0	0

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さぬきこくふあと 讃岐国府跡	かがわけん 香川県 さかいでし 坂出市 ふちゅうちょう 府中町	37203		34° 17′ 43″	133° 55′ 03″	2010.11.9 ～ 2011.2.22	38㎡	讃岐国府跡 探索事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
讃岐国府跡	官衙	古代～中世	溝状遺構、石列状遺構	須恵器、土師器、黒色土器、緑釉陶器、白磁、瓦、石器、獣骨	

要約

讃岐国府跡は、奈良時代に全国に設置されたとされる国府と推定される遺跡である。昭和50年代から香川県教育委員会・坂出市教育委員会などによる発掘調査が実施されているが、国府の中心施設とされる国庁をはじめとする役所群の建物等はいまだ確認・特定されていない。今回の調査では、奈良時代から鎌倉時代にかけての溝状遺構を中心とした遺構を確認した。大規模な溝状遺構SD07・08は開削年代が古代に遡るもので、当該地域を区画する基準線の役割も果たしたものと考えられる。また、埋没途中に設けられた石敷きを伴う石列状遺構は、県内初出のものである。遺構の性格は特定できなかったが、推定南海道から108メートルの位置にあり、方格地割を意識したものと思われる。

平成22年度　香川県内遺跡発掘調査

讃岐国府跡発掘調査概報

平成23年9月15日　発行

編　集　香川県埋蔵文化財センター
〒762－0024
香川県坂出市府中町南谷5001番地の4
電　話（0877）48－2191
ＦＡＸ（0877）48－3249

発　行　香川県教育委員会

印　刷　㈱美巧社